

松戸市立博物館年報

第20号 - 平成24年度 (2012)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

平成24年度の当館の活動についてご報告させていただきます。

まず、平成24年3月に、関根孝夫館長が退任されました。関根先生は、東海大学奉職以前に松戸市教育委員会にお勤めで、また、松戸市文化財審議会委員として、長年、松戸市の文化財保護に携わってこられました。さらには、博物館の設立に最初から委員として関与され、今日の博物館を作り上げてこられました。館長として4年間という短い間でしたが、館のためにご尽力いただきましたことを感謝いたしますとともに、今後ともさらなるご指導・ご鞭撻をお願いする次第です。

次に、展示ですが、当館では、常設展示のほかに、企画展、館蔵資料展、学習資料展などを行っています。秋に企画展として「東日本の古墳と渡来文化」を開催しました。この展覧会は、市内の行人台遺跡出土の渡来系遺物に焦点を当て、その意義を明らかにしようとしたものです。期間中、初めての試みとして、シンポジウム「東日本の古墳と渡来文化」を開催し、市内外の多くの方にご参加いただきました。また、期間中の土・日・祝日には展示解説会を催しました。さらに、この展覧会のキャラクターとしてコシッキーが誕生し、クリアファイルを製作いたしました。

館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」では、歌川広重の「名所江戸百景」のうちから30点を展示しました。館蔵資料展「ガンダーラ」では、当館の所蔵するガンダーラ関係資料を、15年ぶりにまとめて展示いたしました。いずれも多くの方にご覧いただき、好評を博しました。学習資料展「昔のくらし探検」は、昨年度も市内外の多くの小学校の授業に活用して頂きました。

資料の収集では、錦絵3件を購入したほか、益山澄子氏から縄文土器1点をご寄贈いただきました。ご厚意に感謝致しますとともに、貴重な資料として末永く保存し、市民の皆様に公開していきたいと存じます。

また、各種の講演会、講座、体験学習を実施してまいりましたが、市民の皆様の学習意欲にこたえられるように今後とも努力してまいります。

なお、当館では、松戸市史編さん事業も行っています。現在、『松戸市史 上巻』の改訂版刊行に向けて、鋭意編集作業中です。

さて、昨年度も、「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年は市制70周年と同時に、博物館創立20周年を迎えました。東日本大震災後、相変わらず厳しい状況ではありますが、市民の皆様に愛される博物館を目指して努力する所存ですので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成25年8月31日

松戸市立博物館

I	沿革	3
II	施設の概要	5
III	事業の概要	6
	1 常設展示	
	(1)総合展示	
	(2)主題展示	
	(3)野外展示	
	(4)映像展示	
	2 資料・企画展示	9
	(1)館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」	
	(2)館蔵資料展「ガンダーラ」	
	(3)企画展「東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－」	
	(4)学習資料展「昔のくらし探検」	
	(5)エントランス展示	
	3 学習支援	18
	(1)講演会	
	(2)講座	
	(3)体験学習	
	(4)映像シアター・プレイルーム	
	(5)館内公開	
	(6)ガイドツアー（常設展示解説）	
	(7)情報提供	
	(8)博物館実習	
	(9)教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ	
	4 調査・研究	28
	(1)松戸市古文書調査（委託）	
	(2)研究員の活動	
	(3)学芸員の活動	
	(4)市史編さん業務	
	5 資料の収集と利用	32
	(1)資料の収集	
	(2)博物館資料の貸出	
	(3)博物館資料の特別利用	
	(4)資料の燻蒸等	
	6 平成24年度 常設展・企画展アンケート結果	35
	(1)平成24年度常設展	
	(2)館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」	
	(3)館蔵資料展「ガンダーラ」	
	(4)企画展「東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－」	
	(5)学習資料展「昔のくらし探検」	
IV	組織と運営	40
	1 組織	
	2 歳出予算	
	3 事務事業	
	4 各種委員会等	
	5 博物館利用者数の統計	
	6 来訪者	
V	条例・規則	47
	職員名簿	

I 沿 革

月 日	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年 4月	(財)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年 3月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
5月	松戸市美術館構想調査会発足〔委員7名〕
昭和58年 8月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年 4月	社会教育部内に美術館準備室設置
6月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足〔委員10名〕
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年 3月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年 9月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置〔委員15名〕
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足〔委員10名〕
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足〔委員8名〕
平成元年 3月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足〔委員8名〕 展示基本設計を(株)乃村工芸社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年 2月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6月	展示実施設計を(株)乃村工芸社に委託
9月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年 9月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工芸社に委託、工事・製作着手
平成4年 1月	外構工事着手
3月	植栽工事着手
4月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6月	建築工事、外構工事竣工
7月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)
12月	野外展示工事竣工

平成5年1月	展示工事竣工
3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
4月	松戸市立博物館開館(29日) 岩崎卓也初代館長就任
10月	松戸市立博物館協議会発足〔委員10名〕
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点 国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成7年6月9日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 <ul style="list-style-type: none"> (歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足〔委員5名〕
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念 松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道 江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根本内歴史公園開園記念 企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年 活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	岩崎卓也 初代館長退任
4月	関根孝夫 二代館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで) 「縄文時代の東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	関根孝夫 二代館長退任
4月	望月幹夫 三代館長就任

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

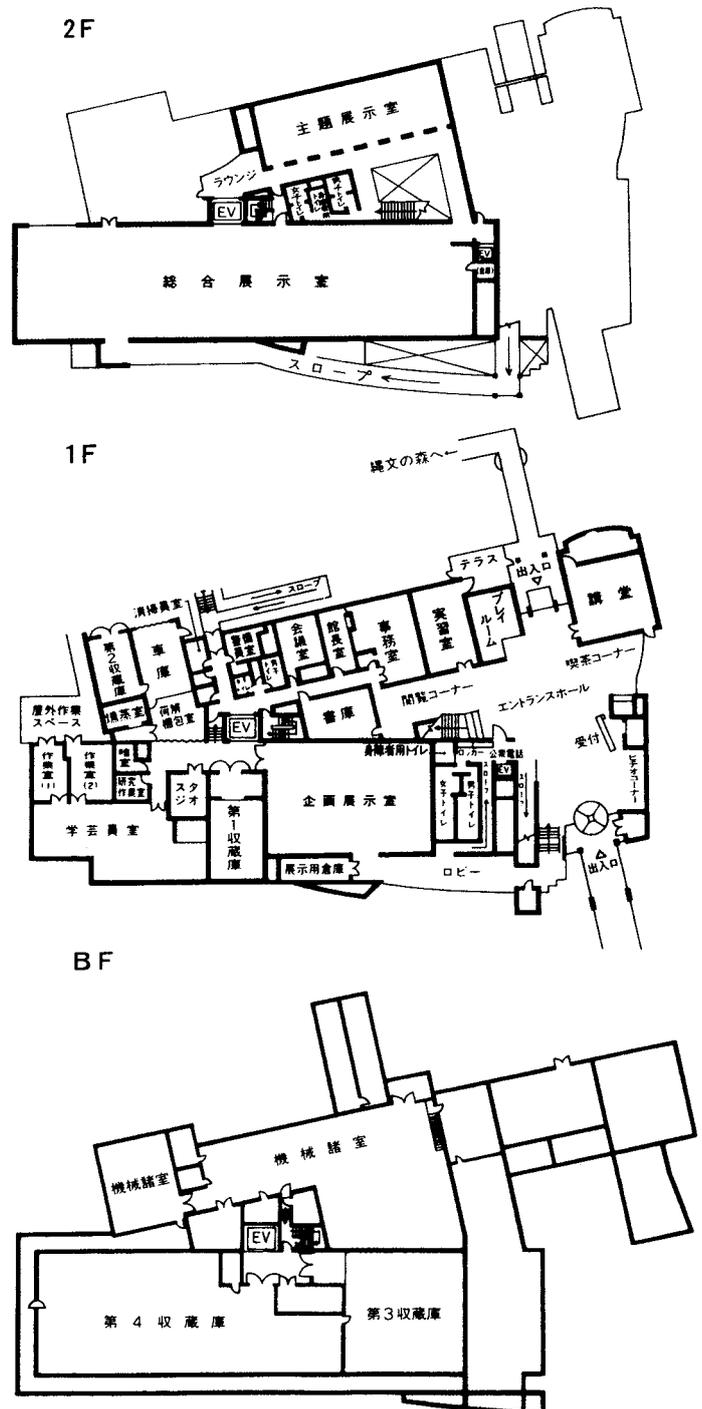
- 1)敷地面積 7,795.81㎡ 2)建築面積 2,709.92㎡
 3)延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡/2階 1,542.92㎡/地下1階 1,388.64㎡
 4)階数 地下1階・地上2階 5)構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC梁構造)
 6)高さ 14.4m

注)博物館周辺環境との調和をはかるため高さを15m以内に、または地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積(㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	ビデオコーナー	-	1	45.66
	小計			371.91
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
小計			300.97	
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
合計			5,446.73	

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流電、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとりて先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近代前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと。また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

(4) 映像展示

ビデオコーナー

■ ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト7作品を製作して公開している。

- ①大地に埋もれた歴史
- ②町並み今昔物語
- ③富士講
- ④万作を語る
- ⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
- ⑥三匹獅子舞～上本郷～
- ⑦三匹獅子舞～大橋～

2 資料・企画展示

(1) 館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」

◆展示意図

歌川広重の風景画の到達点、「名所江戸百景」(復刻版)から「初夏」「夏」を主題とする30点を展示。江戸の人々がこの季節をどのように過ごしていたのか、一方でどのような場所が江戸の名所と認識されていたのかを探っていただきたい。作品の一部と同じ場所を描いた『江戸名所図会』も参考に展示。また、100枚を越す大作「名所江戸百景」シリーズは、安政3～5年(1856～1858)に制作されている。江戸は安政大地震で壊滅的な被害をうけた。その直後に広重がこの作品を世に送り出した意味も興味深いところである。東日本大震災から日の浅いこの期間に、広重の「名所江戸百景」を展示する意味もあるだろう。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 小高昭一〈当館学芸員〉)
- ◆会期 4月28日(土)～6月10日(日)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 3,372人(37日間)
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

ポスター	B2判	10枚(館で印刷)
チラシ	A4判	8,000枚(委託製作)
展示解説シート(リスト付)	A4判6ページ	2,250枚(館で印刷)



◆展示資料

No.	分類	資料名	発行年月	構図	現在地
1	錦絵	名所江戸百景 両国橋大川ばた	安政3年(1856)辰・8月	俯瞰	中央区
2	錦絵	名所江戸百景 浅草川大川端宮戸川	安政4年(1857)巳・7月	近像型	中央区
3	錦絵	名所江戸百景 浅草川首尾の松御厩河岸	安政3年(1856)辰・8月	水平視	台東区
4	錦絵	名所江戸百景 駒形堂吾嬬橋	安政4年(1857)巳・1月	近像型	台東区
5	錦絵	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	安政4年(1857)巳・9月	俯瞰	中央区
6	錦絵	名所江戸百景 みつまたわかれの淵	安政4年(1857)巳・2月	俯瞰	中央区
7	錦絵	名所江戸百景 深川万年橋	安政4年(1857)巳・11月	近像型	江東区
8	錦絵	名所江戸百景 深川八まん山ひらき	安政4年(1857)巳・8月	俯瞰	江東区
9	錦絵	名所江戸百景 深川三十三間堂	安政4年(1857)巳・8月	俯瞰	江東区
10	錦絵	名所江戸百景 佃しま住吉の祭	安政4年(1857)巳・7月	近像型	中央区
11	錦絵	名所江戸百景 鎧の渡し小網町	安政4年(1857)巳・10月	近像型	中央区
12	錦絵	名所江戸百景 日本橋江戸ばし	安政4年(1857)巳・12月	近像型	中央区
13	錦絵	名所江戸百景 日本橋通一丁目略図	安政5年(1858)午・8月	俯瞰	中央区
14	錦絵	名所江戸百景 ハツ見のはし	安政3年(1856)辰・8月	近像型	千代田区
15	錦絵	名所江戸百景 昌平橋聖堂神田川	安政4年(1857)巳・9月	水平視	千代田区
16	錦絵	名所江戸百景 水道橋駿河台	安政4年(1857)巳・閏5月	近像型	文京区
17	錦絵	名所江戸百景 糺町一丁目山王祭ねり込	安政3年(1856)辰・7月	近像型	千代田区
18	錦絵	名所江戸百景 外桜田弁慶堀糺町	安政3年(1856)辰・5月	俯瞰	千代田区
19	錦絵	名所江戸百景 赤坂桐畑	安政3年(1856)辰・4月	近像型	港区

No.	分類	資料名	発行年月	構図	所在地
20	錦絵	名所江戸百景 増上寺塔赤羽根	安政4年(1857)巳・1月	近像型	港区
21	錦絵	名所江戸百景 亀戸天神境内	安政3年(1856)辰・7月	近像型	江東区
22	錦絵	名所江戸百景 五百羅漢さゝみ堂	安政4年(1857)巳・8月	俯瞰	江東区
23	錦絵	名所江戸百景 中川口	安政4年(1857)巳・2月	俯瞰	江東区
24	錦絵	名所江戸百景 逆井のわたし	安政4年(1857)巳・2月	俯瞰	江東区
25	錦絵	名所江戸百景 綾瀬川鐘か測	安政4年(1857)巳・7月	近像型	墨田区
26	錦絵	名所江戸百景 堀切の花菖蒲	安政4年(1857)巳・閏5月	近像型	墨田区
27	錦絵	名所江戸百景 王子不動之瀧	安政4年(1857)巳・9月	水平視	北区
28	錦絵	名所江戸百景 角筈熊野十二社俗称十二そう	安政3年(1856)辰・7月	俯瞰	新宿区
29	錦絵	名所江戸百景 はねたのわたし弁天の社	安政5年(1858)午・8月	近像型	大田区
30	錦絵	名所江戸百景 利根川ばらばらまつ	安政3年(1856)辰・8月	近像型	江戸川区

(2) 館蔵資料展「ガンダーラ」

◆展示目的

当館所蔵のガンダーラ資料は平成9年に特別展「シルクロードとガンダーラ」展で展示されて以来、約15年間まとまって展示されてこなかった。そこで、本展覧会では当館所蔵のガンダーラ関係資料を、多くの市民に公開することを展示の目的とした。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 大森隆志<当館学芸員>)

◆会期 7月21日(土)～9月17日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 3,690人(51日)

◆観覧料 無料

◆印刷物
 ポスター B2判 300枚
 チラシ A4判 10,000枚
 展示解説シート A3判 1,160枚(館で印刷)

◆関連企画

・演題 「仏像のはじまりと伝播」

対象者 一般

開催月日 平成24年8月19日(日)

内容 仏教のはじまりと展開、仏教・仏像の伝播、仏教の諸尊などについて講演した。

講師 松本伸之(東京国立博物館学芸企画部長)

参加人数 95人

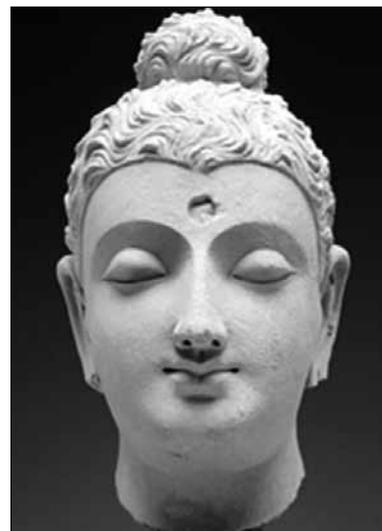
・館長講演会 「ガンダーラの仏教遺跡を掘る」(会場・講堂)

対象者 一般

開催月日 平成24年9月2日(日)午後1時から3時

講師 望月幹夫(当館館長)

参加人数 92人



◆展示資料

No.	名称	展示ゾーン	出土地 収集地等	材質	員数	時代
1	仏頭	1. 仏像	アフガニスタン	ストゥッコ	1	4～5世紀
2	仏頭	1. 仏像	インド 伝マトゥラー	砂岩	1	4～5世紀
3	扉	3. 金工・石製品	パキスタン	青銅	1	1～2世紀
4	三宝環	3. 金工・石製品	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
5	法輪	3. 金工・石製品	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
6	蓮華文	3. 金工・石製品	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
7	蓮華文	3. 金工・石製品	パキスタン	銅・金箔	1	2～5世紀
8	飾板	3. 金工・石製品	アフガニスタン	青銅	1	1～4世紀
9	把手付水瓶	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
10	水瓶部分(注口)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
11	水瓶部分(注口)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
12	水瓶部分(注口)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
13	水瓶部分(口縁部)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
14	水瓶部分(口縁部)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
15	水瓶部分(口縁部)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
16	水瓶部分(底部)	3. 金工・石製品	パキスタン	銅	1	1～2世紀
17	舎利容器	3. 金工・石製品	パキスタン	片岩	1	3～4世紀
18	菩薩半跏像	1. 仏像	パキスタン	片岩	1	1～4世紀
19	破風形浮彫	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	3～4世紀
20	破風形浮彫	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	3～4世紀
21	浮彫「苦行」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
22	浮彫「降魔成道」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
23	浮彫「四天王奉鉢」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
24	浮彫「梵天勸請」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
25	浮彫「初転法輪」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
26	浮彫「火神堂内毒龍調伏」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
27	浮彫「涅槃・仏塔礼拝」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
28	浮彫「分舎利」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
29	浮彫「役人」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
30	浮彫「スリグプタの招待・占夢」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
31	浮彫	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
32	浮彫	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
33	浮彫	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
34	浮彫「供養者像」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
35	浮彫「供養者像」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
36	浮彫「献花供養者像」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
37	浮彫「戦士立像」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀
38	浮彫「戦士群像」	2. 浮彫	パキスタン	片岩	1	2～5世紀

(3) 企画展「東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－」

◆展示意図

古墳時代の日本列島は5世紀以降、東アジアの先進的な技術・文化が伝わる中で、急速な変化を遂げたことが知られるが、そこでは「渡来人」の果たした役割が大きかったとされる。さて、松戸市行人台遺跡は、こうした渡来人の実態を探るうえで注目すべき資料(渡来系遺物)が発見された遺跡であるが、その評価をめぐっては地域の枠を越えて、広く東アジアにおける国際情勢の中で理解することが望まれる。そのため、本企画展では松戸市の事例をはじめとし、千葉県内および東日本各地で発見された渡来系遺物を紹介する中で東日本から見た古墳時代像とその特質を探った。

日韓における国際関係や文化交流が注目される現在において、まさにその原点とも言える古代の文化交流の痕跡に触れ、理解を深めていただくべく本展示を実施した。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 小林孝秀〈当館学芸員〉)
- ◆協力 新京成電鉄株式会社・北総鉄道株式会社・流鉄株式会社・(公財)松戸市文化振興財団・株式会社JCNコアラ葛飾
- ◆会期 平成24年10月6日(土)～11月25日(日)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 2,885人(開催日数44日)
- ◆観覧料 一般 300円(団体240円／共通500円)
高校生・大学生 150円(団体100円／共通250円)
小学生以下 無料



- ◆印刷物
- ポスター B 2判 700枚
- チラシ B 5判 20,000枚
- 展示図録 A 4判(120ページ) 2,000冊
- 展示品目録 A 4判(館で印刷) 900部
- こどもワークシート〈3種〉A 5判(館で印刷) 2,000部
- こどもワークシート「こたえとかいせつ」A 4判(館で印刷) 400部

◆関連企画

- ・企画展記念講演会「東日本の古墳と渡来文化－渡来人を探る－」(会場:当館講堂)

対象者 一般
開催月日 平成24年11月3日(土・祝)
講師 土生田純之氏(専修大学教授)
参加人数 80人

- ・企画展関連シンポジウム「東日本の古墳と渡来文化」(会場:森のホール21／小ホール)

対象者 一般
開催月日 平成24年11月17日(土)(開場:午前10時)

基調講演①「土器から見た東日本の渡来人」
講師:酒井清治氏(駒澤大学教授)

基調講演②「渡来文化の到来と房総の古墳」
講師:白井久美子氏(千葉県教育振興財団文化財センター調査1課長)

基調講演③「金工品からみた5、6世紀の日朝交渉－東日本の事例から－」
講師:高田貫太氏(国立歴史民俗博物館准教授)

パネルディスカッション(討論)
コーディネーター:土生田純之氏(専修大学教授)
パネラー:酒井清治氏、白井久美子氏、高田貫太氏
コメンテーター:望月幹夫(当館館長)

参加人数 219人

・展示解説会

対象者 一般
 開催月日 平成24年10月8日(月・祝)・13日(土)・14日(日)・21日(日)、11月4日(日)・18日・23日(金・祝)・25日(日)
 講師 小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 延べ197人

・展示関連企画「渡来文化にレッツトライ！」

(こども・家族向け展示関連プログラム／会場:企画展示室・プレイルーム等)

対象 一般(こどもから大人まで)
 開催月日 平成24年10月6日(土)～11月25日(日)
 内容 ①ワークシートにトライ！
 (クイズに答えながら、展示を楽しもう／場所:当館企画展示室)
 ②しおりにトライ！
 (展示してあるモノのぬりえをして、しおりをつくろう／場所:当館企画展示室ロビー・図書閲覧コーナー)
 ③かんむりにトライ！
 (冠をかぶってみよう。古代の服もあるよ／場所:当館プレイルーム)
 参加人数 ①集計無し②延べ444人③延べ362人



◆展示資料

記号の説明 ◎:重要文化財 ○:県指定文化財 ●:市指定文化財

第Ⅰ章 松戸で発見された渡来系遺物 —よみがえる行人台遺跡の世界—

No.	指定	資料名	遺跡名/遺構名	点数	所蔵者
1		鑄造鉄斧	千葉県松戸市行人台遺跡 6号住居跡	1	松戸市立博物館
2		多孔式甌	千葉県松戸市行人台遺跡 6号住居跡	1	松戸市立博物館
3		鑄造鉄斧	埼玉県本庄市後張遺跡 162号住居跡	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館
4		鑄造鉄斧	静岡県浜松市須部Ⅱ遺跡 SD07	1	浜松市博物館
5		鑄造鉄斧	静岡県浜松市幌子遺跡13次	1	浜松市博物館
6		多孔式甌	埼玉県本庄市古川端遺跡 8号住居跡	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館
7		多孔式甌	埼玉県行田市武良内遺跡 2号住居跡	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館
8		多孔式甌	千葉県市原市草刈5号墳	1	千葉県教育委員会
9		朝鮮半島系土器片	千葉県松戸市行人台遺跡 F区表土ほか	4	松戸市立博物館
10		不明鉄板	千葉県松戸市行人台遺跡 8号住居跡	1	松戸市立博物館
11		砥石	千葉県松戸市行人台遺跡 8号住居跡	6	松戸市立博物館

第Ⅱ章 渡来人がもたらした技術と文化

1. 海を渡ってきた騎馬文化

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
12		鏢轡	群馬県甘楽郡甘楽町西大山遺跡 1号墳	1	甘楽古代館
13		鏢轡	長野県飯田市物見塚古墳	1	飯田市教育委員会
14		鏢轡	長野県飯田市高岡4号古墳	1	飯田市教育委員会
15		木芯鉄板張輪鏝	長野県飯田市新井原2号古墳	1	飯田市教育委員会
16	●	f字形鏡板付轡	長野県飯田市宮垣外遺跡 SM3(SK64)	1	飯田市教育委員会
17	●	剣菱形杏葉	長野県飯田市宮垣外遺跡 SM3(SK64)	3	飯田市教育委員会
18		馬の埋葬・全身骨	長野県飯田市宮垣外遺跡 10号土坑	1	飯田市教育委員会
19		f字形鏡板付轡	長野県飯田市新井原遺跡 4号土坑	1	飯田市教育委員会
20		剣菱形杏葉	長野県飯田市新井原遺跡 4号土坑	1	飯田市教育委員会
21		内弯楕円形鏡板付轡	千葉県佐倉市大作31号墳	1	千葉県教育委員会
22		鉸具	千葉県佐倉市大作31号墳	1	千葉県教育委員会
23		鞍金具	千葉県佐倉市大作31号墳	1	千葉県教育委員会
24		内弯楕円形鏡板付轡	長野県飯田市北本城古墳	1	飯田市教育委員会

2. はるかなる半島起源の墓 —積石塚—

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
25		金銅製飾履(複製)	群馬県高崎市下芝谷ツ古墳	1	かみつけの里博物館
26		金銅製飾履(複元)	群馬県高崎市下芝谷ツ古墳	1	かみつけの里博物館
27		金製垂飾付耳飾	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 10号墳	1	高崎市教育委員会
28		X字銜留付環板付轡	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 13号土坑	1	高崎市教育委員会
29		轡の出土状況(模型)	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 13号土坑	1	高崎市教育委員会
30		軟質土器 把手片	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 114号住居跡	2	高崎市教育委員会
31		軟質土器 甑片	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 10号墳	2	高崎市教育委員会
32		軟質土器 甕片	群馬県高崎市剣崎長瀬西遺跡 30号住居跡	3	高崎市教育委員会
33		銅鏡	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
34		垂飾	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
35		勾玉	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	3	浜松市博物館
36		ガラス玉	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	一括	浜松市博物館
37		紡錘車	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷1号墳	1	浜松市博物館
38		鉄剣	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	3	浜松市博物館
39		鉄刀	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
40		鉄鏃	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷2号墳	5	浜松市博物館
41		須恵器 壺	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
42		須恵器 甗	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷6号墳	1	浜松市博物館
43		須恵器 甗	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
44		須恵器 高坏	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷23号墳	1	浜松市博物館
45		須恵器 把手坏境	静岡県浜松市二本ヶ谷積石塚群 東谷4号墳	1	浜松市博物館
46		土馬(馬形土製品)	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	1	明治大学博物館
47		須恵器 坏身	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	2	明治大学博物館
48		須恵器 坏蓋	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	2	明治大学博物館
49		須恵器 甗片	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	5	明治大学博物館
50		土師器 蓋	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	2	明治大学博物館
51		円筒埴輪片	長野県長野市大室古墳群 ムジナゴロ支群168号墳	3	明治大学博物館

3. 生活の変化 —カマドをもつ住居の普及—

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
52		土師器 甕	千葉県松戸市殿平賀向山遺跡 7号住居跡	1	松戸市立博物館
53		土師器 甑	千葉県松戸市殿平賀向山遺跡 7号住居跡	1	松戸市立博物館
54		支脚(土師器埴の転用)	千葉県松戸市殿平賀向山遺跡 7号住居跡	1	松戸市立博物館
55		須恵器 蓋	千葉県市原市御林跡遺跡 83号遺構・竪穴住居跡	1	市原市埋蔵文化財調査センター
56		須恵器 壺	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会
57		土師器 坏	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会
58		土師器 埴	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会
59		土師器 高坏	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会
60		土師器 甑	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会
61		土製支脚(転用)	千葉県市原市草刈遺跡(J区) 100号住居跡	1	千葉県教育委員会

4. 須恵器生産の開始 —新しい焼き物の技術—

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
62		須恵器 甗	千葉県市原市草刈六之台遺跡 818号住居跡	1	千葉県教育委員会
63		須恵器 甗	千葉県市原市草刈六之台遺跡 770号住居	1	千葉県教育委員会
64		須恵器 甗	千葉県市原市草刈3号墳	1	千葉県教育委員会
65		須恵器 坏蓋	千葉県市原市草刈3号墳	1	千葉県教育委員会
66		須恵器 坏身	千葉県市原市草刈3号墳	1	千葉県教育委員会
67		須恵器 器台(脚部)	千葉県市原市草刈3号墳	1	千葉県教育委員会
68		脚付舟形須恵器	千葉県市原市草刈3号墳	1	千葉県教育委員会
69		須恵器 坏身	千葉県市原市御林跡遺跡 210号遺構(竪穴住居跡)	1	市原市埋蔵文化財調査センター
70		須恵器 坏蓋	千葉県市原市御林跡遺跡 240号遺構(竪穴住居跡)	1	市原市埋蔵文化財調査センター
71		須恵器 高坏	千葉県市原市草刈六之台遺跡 313号住居跡	2	千葉県教育委員会
		千葉県市原市草刈六之台遺跡 840号住居跡	千葉県教育委員会		
72		赤焼き須恵器 高坏	千葉県市原市草刈六之台遺跡 817号住居跡	2	千葉県教育委員会
		千葉県市原市草刈六之台遺跡 310号住居跡	千葉県教育委員会		
73		赤焼き須恵器 短頸壺	千葉県市原市草刈六之台遺跡 792号住居跡	2	千葉県教育委員会
		千葉県市原市草刈六之台遺跡 42号住居跡	千葉県教育委員会		

74		銀製垂飾付耳飾(複製)	千葉県市原市姉崎二子塚古墳	1対	市原市埋蔵文化財調査センター(原品: 國學院大學研究開発推進機構学術資料館所蔵)
75		鉄鉾	千葉県市原市草刈1号墳 第1主体部	2	(公財)千葉県教育振興財団文化財センター
76		鎌	千葉県市原市草刈1号墳 第1主体部	1	(公財)千葉県教育振興財団文化財センター
77		鉄鉾	千葉県市原市草刈1号墳 第2主体部	1	(公財)千葉県教育振興財団文化財センター
78		鋸	千葉県市原市草刈1号墳 第2主体部	1	(公財)千葉県教育振興財団文化財センター
79		蕨手刀子	千葉県市原市草刈1号墳 第2主体部	1	(公財)千葉県教育振興財団文化財センター

5. 土器に眠る故地の記憶

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
80		甕	群馬県高崎市下芝五反田遺跡	1	高崎市教育委員会
81		坏	千葉県千葉市大森第2遺跡 68号住居跡	2	千葉県立房総のむら
82		深鉢	千葉県千葉市大森第2遺跡 68号住居跡	1	千葉県立房総のむら
83		長頸壺	千葉県千葉市東寺山戸張作遺跡 177号住居跡	1	千葉市埋蔵文化財調査センター
84		陶質土器片	千葉県千葉市生実城跡	7	千葉市埋蔵文化財調査センター
85		短頸壺片	東京都足立区伊興遺跡	5	足立区教育委員会
86		細頸瓶片	東京都足立区伊興遺跡	1	足立区教育委員会
87		細頸瓶(復元)	東京都足立区伊興遺跡	1	足立区教育委員会
88		甕	千葉県市原市草刈六之台遺跡 806号住居跡	1	千葉県教育委員会
89		甕(短頸壺)	静岡県浜松市山ノ花遺跡 5世紀大溝	1	浜松市博物館
90		把手付鉢	東京都葛飾区柴又八幡神社古墳	1	葛飾区郷土と天文の博物館
91		把手片	千葉県松戸市大谷口遺跡 16号住居跡	1	松戸市立博物館
92		緑釉瓶・蓋	千葉県富津市野々間古墳	各1	千葉県立房総のむら
93		短頸壺	千葉県市川市下総国分寺跡 第55次SI03	1	市立市川考古博物館
94		把手付壺	千葉県市川市曾谷南遺跡 第10地点SI01	1	市立市川考古博物館
95		把手片	千葉県市川市国府台遺跡 市営運動場地点3次	1	市立市川考古博物館

第三章 渡来系遺物の世界

1. 装身具の煌めきとその威信

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
96		金製細環式耳飾	朝鮮半島(小倉コレクション)	1対	東京国立博物館
97		金製太環式耳飾	朝鮮半島(小倉コレクション)	1	東京国立博物館
98		金製細環式耳飾	朝鮮半島(小倉コレクション)	1対	東京国立博物館
99	○	金銅製冠	茨城県行方市三味塚古墳	1	茨城県立歴史館
100	○	金銅製垂飾付耳飾	茨城県行方市三味塚古墳	1対	茨城県立歴史館
101		銀製垂飾付耳飾	長野県飯田市畦地1号墳	1対	飯田市教育委員会
102		金銅製冠(復元)	群馬県前橋市山王二子山(金冠塚)古墳	1	群馬県立歴史博物館(原品: 東京国立博物館所蔵)

2. 半島系の副葬品をもつ首長たち

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
103		筒袖表現の人物埴輪	千葉県市原市山倉1号墳	1	市原市教育委員会
104	◎	心葉形鏡板付轡	群馬県高崎市綿貫観音山古墳	1	文化庁(群馬県立歴史博物館保管)
105	◎	心葉形杏葉	群馬県高崎市綿貫観音山古墳	3	文化庁(群馬県立歴史博物館保管)
106	◎	異形冑	群馬県高崎市綿貫観音山古墳	1	文化庁(群馬県立歴史博物館保管)
107	◎	水瓶	群馬県高崎市綿貫観音山古墳	1	文化庁(群馬県立歴史博物館保管)
108	◎	三累環頭大刀	群馬県高崎市綿貫観音山古墳	1	文化庁(群馬県立歴史博物館保管)
109		三累環頭大刀柄頭	朝鮮半島(小倉コレクション)	1	東京国立博物館
110		馬冑(復元)	埼玉県行田市將軍山古墳	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館
111		蛇行状鉄器	埼玉県行田市將軍山古墳	1	埼玉県立さきたま史跡の博物館
112		環頭大刀	埼玉県行田市將軍山古墳	1	東京国立博物館
113		八角稜鈴	埼玉県行田市將軍山古墳	1	東京大学総合研究博物館

3. 大刀の輝き—権威の象徴—

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
114		単鳳環頭大刀	群馬県高崎市安坪Ⅱ遺跡3号墳	1	高崎市教育委員会
115	○	単鳳環頭大刀	千葉県香取市城山1号墳	1	香取市教育委員会
116	○	単鳳環頭大刀	千葉県香取市城山1号墳	1	香取市教育委員会
117	○	単鳳環頭大刀	千葉県香取市城山1号墳	1	香取市教育委員会
118	○	単鳳環頭大刀	千葉県香取市城山1号墳	1	香取市教育委員会
119		龍鳳文環頭大刀柄頭	朝鮮半島(小倉コレクション)	1	東京国立博物館
120		双龍環頭大刀(復元)	茨城県伝舟塚古墳出土	1	茨城県立歴史館(原品: 同館所蔵)
121	●	金銀装門頭大刀	静岡県浜松市鳥居松遺跡	1	浜松市博物館

4. 仏教文化とのめぐり合い—もうひとつの渡来文化—

No.	指定	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
122		高台付蓋付銅鏡	埼玉県行田市將軍山古墳	1	東京大学総合研究博物館
123		銅鏡	埼玉県行田市將軍山古墳	1	東京大学総合研究博物館
124		心葉形透彫杏葉(複製)	群馬県高崎市観音塚古墳	2	高崎市観音塚考古資料館
125		花形杏葉(複製)	群馬県高崎市観音塚古墳	3	高崎市観音塚考古資料館
126		銀製唐草文透鞘金具(複製)	群馬県高崎市観音塚古墳	1	高崎市観音塚考古資料館
127		圭頭大刀	伝群馬県藤岡市出土	1	東京国立博物館
128	○	金銅製冠飾	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	1	千葉県立中央博物館
129	○	銀冠	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	1	千葉県立中央博物館
130	○	銀製带状金具(銀冠)	茨城県土浦市武者塚古墳	1	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
131	○	杏葉	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	2	千葉県立中央博物館
132	○	円形辻金具	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	1	千葉県立中央博物館
133	○	円形金具	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	2	千葉県立中央博物館
134	○	方形金具	千葉県印旛郡栄町浅間山古墳	4	千葉県立中央博物館

(4) 学習資料展「昔の暮らし探検」

◆展示意図

学習資料展「昔の暮らし探検」は、私たちの便利な生活がどのように形づくられてきたか、そのなかで失われたかつての生活における技術、知恵などを子どもたちに伝えようと開催した。今から80年程前の市内の農家の暮らしを出発点にして、衣食住の様々な生活の変化を探検しながら現在の生活に至る、身近な生活の歴史を紹介した。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也<当館学芸員>)

◆会期 平成25年1月22日(火)～3月31日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 7,935人

◆観覧料 無料

◆印刷物
ポスター B2判 10枚(館で印刷)

チラシ A4判 10,000枚(委託製作)

リーフレット A3判2つ折 1,500枚(館で印刷)

探検手帳 A4判2つ折 500枚(館で印刷)



◆展示資料

〈1〉住まう

(1)農家の住まい 農家(模型1/20)農家の間取り(模型1/20)

〈2〉食べる

(1)かまど

かまど(模型1/1) まき 鉈 火吹き竹 十能 火挟み 火消し壺 七輪(2) 渋うちわ 炭入れ 付け木

(2)ご飯を炊く

米櫃 一升杓(2) 五合杓(2) 一合升 一斗杓 斗かき 米研ぎ桶 あげざる 羽釜(2) 飯櫃 飯台 杓文字 飯櫃入れ

(3)おかずを煮炊きする

鉄鍋 銅鍋 銅行平鍋 杓子 焼き網 うらごし器 焙烙 せいろ すり鉢 すりこ木 おろし金(金属製) おろし金(陶製) かつお節削り 脚付きまな板 杓文字掛け あげざる 醤油徳利 酒徳利

(4)食卓

お膳(5) 飯茶わん(2) 汁わん(2) 四つ椀 ちゃぶ台(2) 土瓶 茶碗

(5)水まわりの暮らし

井戸車 釣瓶桶 手押しポンプ 手桶 水瓶 柄杓 流し台 洗い桶

(6) 食べ物の保存

蠅帳 甕 漬け物樽(3)

<3> 着る

(1) 着物

野良着 女の単衣の着物 女の袷の着物と羽織 男の単衣の着物 男の袷の着物と羽織
男子の単衣の着物 男子の袷の着物と羽織

(1) 機織り

高機 手織りの袋

(2) 裁縫

針箱 くけ台 尺差し(2) 裁ち板

(3) 洗濯

たらい 金だらい 洗濯板 洗濯石鹸 火のし 鋏 炭火アイロン 張り板

<4> くらす

(1) 冬のくらし

火鉢(木製) 火鉢(陶製) 五徳 火箸 灰ならし 鉄瓶 炭おこし 十能(炭運び) 炭入れ やぐら
炬燵 行火 湯たんぽ(陶製) ゆたんぽ(ブリキ製) 掻いまき布団

(2) 夏のくらし

蚊帳 蚊遣りふた うちわ(3) すだれ屏風 すだれ

(3) 明かり

燭台 行灯 ランプ 電灯 手燭 がんどう 小田原提灯

(4) しまう

行李 箆筒 茶箱 衣桁 布団風呂敷 敷き布団 鏡台

(5) 掃除

座敷ほうき 庭ほうき ぞうきん バケツ

(6) 聞く・見る

蓄音機 ラジオ

<5> 耕す

下肥桶 天秤棒 肥柄杓 万能 平鋤 えぶり(しろならし) 田んぼ(模型) 田下駄 田植え定規
除草機 踏み車 足踏み脱穀機 唐箕 もみならし 万石通し 俵じょうご 米俵 一斗枵 斗かき

◆関連企画

小学生学芸員による展示解説会(会場:企画展示室)

開催月日 2月2日(土)①13時15分~13時45時 ②14時~14時30分

対象者 学習資料展観覧者

講師 小学生学芸員

参加人数 ①28人②33人

(5) エントランス展示

◆館蔵写真展示(企画担当 柏木一朗<当館学芸員>)

◆展示意図

エントランスに写真パネルを展示し戦前戦後の松戸市域の風景を紹介した。

◆展示期間・資料名

展 示 期 間	資 料 名
平成24年12月1日(土) ~25年3月31日(日)	「松戸郵便局」(昭和11年) 「松戸駅前通り(西口)」(昭和32年)「常盤平団地」(昭和30年代) 「旧水戸街道(松戸駅入口交差点付近)」(昭和30年代)

3 学習支援

(1) 講演会

■館長講演会(会場:講堂)

演 題 「ガンダーラの仏教遺跡を掘る」
対 象 者 一般
開催月日 平成24年9月2日(日)
内 容 東京国立博物館が行った、パキスタンの北西辺境州ザールデリー遺跡の発掘調査を中心に、ガンダーラの遺跡・遺物について講演した。
講 師 望月幹夫(当館館長)
参加人数 92人

(館蔵資料展「ガンダーラ」の関連企画として実施)

■歴史を語る(会場:講堂)

第1回 演 題 「地域社会における資源利用慣行－野生生物との関係をめぐって－」
対 象 者 一般
開催月日 平成24年6月17日(日)
内 容 千葉県安房地方の小型沿岸捕鯨を事例にして、野生生物を資源とすることで成立していた共同体の現状とこれからの課題について考察した。
講 師 小島孝夫氏(成城大学文芸学部教授)
参加人数 27人

第2回 演 題 「仏像のはじまりと伝播」
対 象 者 一般
開催月日 平成24年8月19日(日)
内 容 仏教のはじまりと展開、仏教・仏像の伝播、仏教の諸尊などについて講演した。
講 師 松本伸之(東京国立博物館学芸企画部長)
参加人数 95人

(館蔵資料展「ガンダーラ」の関連企画として実施)

第3回 演 題 「昭和20年前後米軍撮影空中写真について－米軍が撮影した自然災害－」
対 象 者 一般
開催月日 平成24年11月10日(日)
内 容 昭和20年前後に米軍が日本各地を撮影した空中写真は、自然災害による被災状況を把握し、現在の地形とどのような関係にあるかを解析することが可能であることについて講演した。
講 師 小林政能氏(日本地図センター主幹研究員)
参加人数 23人

■自然を語る(会場:講堂)

第1回 演 題 「江戸川の生きものと流域の人々」
対 象 者 一般
開催月日 平成24年8月25日(土)
内 容 江戸川の歴史を辿りながら、多くの写真を通じて驚くほど多様な生物の姿を示すと共に、一度失われれば回復が難しい自然環境を保全する大切さを説いた。
講 師 田中利勝氏(自然通信社代表)
参加人数 39人

第2回	演 題	「あなたが知らない上野動物園－動物園のヒミツ、お話しします」
	対 象 者	一般
	開催月日	平成24年9月29日(土)
	内 容	動物園に勤務するさまざまな職種の職員とその活動、飼育舎内での動物たちの行動など、ふだん観覧者からは見えない側面について詳しく紹介を行った。
	講 師	井内岳志氏(上野動物園教育普及課主任[学芸員])
	参加人数	46人

■連続講座「学芸員講演会」(博物館友の会共催)(会場:講堂・現地)

各学芸員が専門分野について講演した。

学芸員講演会

開催月日	タイトル	講師	参加者(うち一般参加者)
平成24年6月16日(土)	民俗学からみた人の一生	青木俊也	28人(7人)
7月21日(土)	小金牧の享保改革 その2	小高昭一	54人(21人)
10月20日(土)	海を渡り来た文物－古墳時代の交流史－	小林孝秀	84人(38人)
11月11日(日)	考古資料の調査・整理・公開について	大森隆志	15人(2人)
平成25年1月19日(土)	日本の郷土玩具－収蔵庫をひらく2－	山田尚彦	13人(1人)
2月16日(土)	地味な御城まわりの、有りあまるほどの美田 －相馬御厨と佐津間城跡－	中山文人	49人(15人)
3月16日(土)	まぼろしの松戸飛行場	柏木一朗	28人(12人)

■松戸市立博物館友の会総会記念講演会(博物館友の会共催)(会場:講堂)

演 題	「松戸の貝塚」
対 象 者	一般
開催月日	平成24年5月26日(土)
内 容	多くの貝塚調査を行ってきた講師の経験談をまじえながら、貝塚に関する諸問題を取りあげ、縄文時代の松戸や下総地方の縄文時代の人々の生活について講演した。
講 師	前田潮(筑波大学元教授)
参加人数	64人

■第5回ニッポン建設映像祭(主催アンダーコンストラクション・フィルムアーカイブ 共催 松戸市立博物館)(会場:講堂)

上映作品	「新しい都市」(常盤平団地建設記録)・「公団アパートを量産する」 「集団住宅建設記録」(千里山団地の建設記録)
対 象 者	一般
開催月日	平成24年4月22日(日)
内 容	日本における20世紀の建設映像記録として、日本住宅公団(現UR)による公団住宅団地建設の映像を上映した。
参加人数	80人

(2) 講座

■古文書を読む(近世中級編Ⅰ－松戸の近世文書を読む－)(会場:実習室)

対 象 者	一般(経験者)
開催月日	平成24年6月10日(日)・24日(日)・7月7日(土)・22日(日)・29日(日) 全5回(原則隔週日曜日)、午後2時～4時

内 容 古文書解読の経験者を対象に、博物館所蔵の近世文書をテキストに使用して読解を進めながら、江戸時代の松戸の歴史を学ぶことを目標とした。今回は旧千駄堀村の名主文書から、昨年度の近世中級編で途中まで解読した寛政8年(1796)「諸御用留帳」の続きから始め、途中まで解読を進めた。

講 師 中野達哉氏(駒澤大学教授)

参加人数 延べ118人(定員30人・応募者45人中30人を抽選)

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ -松戸の近世文書を読む-) (会場:実習室)

対 象 者 一般(経験者)

開催月日 平成25年1月27日(日)・2月10日(日)・24日(日)・3月10日(日)・24日(日)

全5回(隔週日曜日)、午後1時～3時

内 容 古文書解読の経験者を対象に、博物館所蔵の近世文書をテキストに使用して読解を進めながら、江戸時代の松戸の歴史を学ぶことを目標とした。今回は旧千駄堀村の名主文書から、今年度の近世中級編Ⅰで途中まで解読した寛政8年(1796)「諸御用留帳」の続きから始め、途中まで解読を進めた。

講 師 出口宏幸氏(駒澤大学非常勤講師)

参加人数 延べ111人(定員30人・応募者45人中30人を抽選)

■古文書を読む(近世入門編) (会場:実習室)

対 象 者 一般(初心者)

開催月日 平成25年1月26日(土)・2月9日(土)・23日(土)・3月9日(土)・23日(土)

全5回(隔週土曜日)、午前10時30分～12時

内 容 古文書解読の初心者を対象に、松戸地域に関わる古文書をテキストに使用して、文字の読み方や時代背景の講義を行い、古文書に親しみながら松戸の近世史を理解してもらうことを目標とした。

講 師 小高昭一(当館学芸員)

参加人数 延べ125人(定員30人・応募者35人中30人を抽選)

■中世史料を読む(会場:女性センターゆうまつど)

対 象 者 一般(定員30人)

開催月日 平成24年9月13日(木)・9月27日(木)・10月11日(木)・10月25日(木)・11月8日(木)・11月22日(木)

全6回(隔週木曜日)、18時30分～20時30分

内 容 中世の文書・記録の読解と解説を通して、歴史的資料から直に歴史を学ぶ。今年度は前年度に引き続いて『吾妻鏡』を講読した。

講 師 中山文人(当館学芸員)

参加人数 延べ162人

■松戸市パートナー講座(講座名:松戸の歴史を学ぼう)

実施年月日	講 座 内 容	主催者	派遣講師	参加者数
平成24年6月14日(木)	江戸時代の松戸	高寿会(老人会)	小高学芸員	33名
6月19日(火)	根本を中心にした近世・近代の松戸の歴史	根本連合町会	柏木学芸員	16名
7月27日(金)	小金の中世	小金地区社会福祉協議会	中山学芸員	103名
8月21日(火)	江戸時代の新田開発	松戸石造物懇話会	小高学芸員	20名
11月18日(日)	五香六実の歴史	六実連合町会 北町町会シニアクラブ	柏木学芸員	17名
12月15日(土)	近世～近現代の松戸の歴史について	小金原1丁目町会	柏木学芸員	23名
平成25年2月22日(金)	水戸道中と小金宿	小金地区社会福祉協議会	小高学芸員	124名

■社会教育施設等への講師派遣

実施年月日	講座名	主催者	派遣講師	参加者数
平成24年5月11日(金)	松戸市立博物館近世史	まつど学びの旅推進協議会	小高学芸員	45人
7月24日(金)	松戸の歴史をひもといてみよう —松戸と小金の宿について知ろう—	松戸市立図書館	小高学芸員	20人
平成25年2月8日(金)	国府台合戦のころの松戸	松戸市公民館	中山学芸員	58人

(3) 体験学習

■体験教室「小学生学芸員－米づくり・展示づくり－」(博物館友の会共催)

- 対象者 小学校4年生～6年生
- 開催月日 ①5月19日(土)田植え②5月20日(日)勉強会
③7月7日(土)田の草取り④8月4日(土)案山子づくり⑤9月22日(土・祝)稲刈り
⑥10月6日(土)脱穀と展示をつくる(1) ⑦11月3日(土)竈でご飯を炊く ⑧12月15日(土)展示をつくる(2) ⑨12月16日(日)展示をつくる(3) ⑩1月12日(土)展示をつくる(4) ⑪2月2日(土)小学生学芸員展示解説会
- 内 容 21世紀の森と広場内の水田で、田起こし・代かきから田植え、田の草取り、案山子づくり、刈り取り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を示したパネルをつくり、学習資料展「昔のくらし探検」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示した。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を受けた。
- 講 師 青木俊也・中山文人(当館学芸員)
- 参加人数 延べ52人(①5人②5人③5人④5人⑤5人⑥4人⑦5人⑧4人⑨4人⑩5人⑪5人)

■こども体験教室「勾玉づくり」(会場:実習室)

※8月18日実施分は、応募者多数のため1回追加した(第5回目)。

- 第1回 対象者 小学生
開催月日 平成24年5月3日(木)10時～11時
講 師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
参加人数 14人(定員15人)
- 第2回 対象者 小学生
開催月日 平成24年5月3日(木)13時30分～14時30分
講 師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
参加人数 11人(定員15人)
- 第3回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月18日(土)10時～11時
講 師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 11人(定員15人)
- 第4回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月18日(土)13時30分～14時30分
講 師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 14人(定員15人)
- 第5回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月18日(土)15時～16時
講 師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 10人(定員15人)
- 内 容 縄文時代の装身具作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■こども体験教室「土鈴をつくろう」(会場:実習室)

※午前・午後の計2回を予定していたが、応募者多数のため、第3回目を設けた。

- 第1回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月4日(土)10時~11時
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 15人(定員15人)
- 第2回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月4日(土)13時30分~14時30分
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 13人(定員15人)
- 第3回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月4日(土)15時00分~16時00分
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 10人(定員15人)
内 容 縄文時代の土鈴作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■こども体験教室「骨ペンダントづくり」(会場:実習室)

- 第1回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月11日(土)10時~11時
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 15人(定員15人)
- 第2回 対象者 小学生
開催月日 平成24年8月11日(土)13時30分~14時30分
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 15人(定員15人)
内 容 縄文時代の装身具作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■体験教室「縄文土器をつくる」(会場:実習室ほか)

- 対象者 一般
開催月日 平成24年10月21日(日)・10月27日(土)・11月18日(日)・11月24日(土)10時~15時
内 容 市内の縄文時代遺跡から出土した土器をモデルに、縄文土器の製作体験を行なった。粘土作り・成形・施文・みがき・焼成までの一連の製作工程を体験することによって縄文文化への理解を深めてもらうことを目的とした。
講師 大森隆志(当館学芸員)
参加人数 延べ45人(定員12人)

■昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

- 対象者 小学生以上の学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成25年1月26日(土)②2月2日(土)③2月9日(土)④2月16日(土)
⑤2月23日(土)⑥3月2日(土)⑦3月9日(土)⑧3月16日(土)⑨3月23日(土)
⑩3月30日(土)
内 容 四角い物・丸い物・瓶を風呂敷で包んだ。
講師 友の会会員
参加人数 延べ294人(①38人②24人③17人④22人⑤31人⑥20人⑦27人⑧42人⑨38人⑩35人)
(学習資料展「昔のくらし探検」の関連企画として実施)

■昔のくらし体験教室「天秤棒で桶を担いでみよう」(博物館友の会共催)(会場:企画展示室)

- 対象者 小学生以上の学習資料展「昔のくらし探検」観覧者

開催月日 ①平成25年1月26日(土) ②2月2日(土) ③2月9日(土) ④2月16日(土)
 ⑤2月23日(土) ⑥3月2日(土) ⑦3月9日(土) ⑧3月16日(土)
 ⑨3月23日(土) ⑩3月30日(土)

内 容 天秤棒で桶を担いだ。

講 師 友の会会員

参加人数 延べ253人(①23人②38人③20人④23人⑤31人⑥25人⑦20人⑧21人⑨20人⑩32人)
 (学習資料展「昔のくらし探検」の関連企画として実施)

■昔のくらし体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:プレイルーム・実習室)

対 象 者 4年生以上の小学生

開催月日 糸つむぎ①平成24年7月31日(火)
 機織り②8月2日(木)

内 容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

講 師 青木俊也(当館学芸員) プレイルームスタッフ
 はたくさの会会員(博物館友の会サークル)

参加人数 延べ18人(①9人②9人)

■体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:プレイルーム・実習室)

対 象 者 一般

開催月日 (糸つむぎ)①平成25年1月16日(水)
 (機織り) ②1月18日(金)

内 容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

講 師 青木俊也(当館学芸員) プレイルームスタッフ
 はたくさの会会員(博物館友の会サークル)

参加人数 延べ18人(①9人②9人)

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対 象 者 一般

開催月日 平成25年2月19日(火)・20日(水)・21日(木)

内 容 擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する先人の知恵を体験した。

講 師 青木俊也(当館学芸員)
 はたくさの会会員(博物館友の会サークル)

参加人数 30人

(4) 映像シアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利の有する映像ソフトを月替わりで毎日、講堂において定時上映した。ただし講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 火～金曜日 13時15分・15時15分

土・日・祝日 11時・13時15分・15時15分

※平成24年6月25日～7月2日は燻蒸に伴う休館のため、上映していない。

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H24/4/1～30	司馬遼太郎と城を歩く第3巻～松山城・宇和島城・首里城・姫路城～	25日	647人	25人
5/1～31	土蜘蛛草子 日本絵巻大全第1巻	25日	424人	16人
6/1～24	司馬遼太郎と城を歩く第4巻～上田城・高取城・洲本城・丸亀城～	20日	423人	21人

■ミュージアムシアター

7/3～31	信貴山縁起絵巻(山崎長者巻)日本絵巻大全第2巻	25日	279人	11人
8/1～31	都民たちの戦場～東京大空襲～戦後日本の原風景Vol.1	27日	399人	14人
9/1～30	妻と夫がけんかした話 映画で見る昭和30年代の日本・家庭の幸福 夫婦編2	25日	334人	13人
10/1～31	東海・関東の地域学 森浩一が語る日本の古代第9巻	26日	319人	12人
11/1～30	東アジア文化と日本 森浩一が語る日本の古代第11巻	26日	315人	12人
12/1～27	帝都誕生～東京の近代化遺産～日本の近代化遺産第3巻	23日	233人	10人
H25/1/5～31	愛情屋台 映画で見る昭和30年代の日本・家庭の幸福 夫婦編3	22日	307人	13人
2/1～28	古都の文明開化～京都の近代化遺産～日本の近代化遺産第4巻	23日	317人	13人
3/1～31	おらんだ楽隊 千葉県指定無形民俗文化財シリーズ	26日	243人	9人
H24/4/1～H25/3/31の合計値・平均値		273日	4,240人	15人

■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しめる場所として無料で開放している。体験プログラムを手直しして、①やってみようアンギン編み②つくってみようコースター③着てみようアンギン編みの服④つかってみよう糸車の4種類に整理した。

平成24年度利用者総数 8,648人

(5) 館内公開

対象者	一般
開催月日	平成24年8月18日(土)10:00～11:30
内容	博物館の多様な活動を理解していただくため、通常は非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説した。
講師	山田尚彦(当館学芸員)
参加人数	21人

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日午前10時と午後2時から行った(解説時間約30分間)。なお、団体観覧者においては適宜開催し、平成24年度は49回行い366人が参加した。

(7) 情報提供

■閲覧コーナー

博物館利用者の学習支援のため、当館の購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行なっている。蔵書の一部は開架で提供している。

- ・蔵書数(平成25年3月31日現在)
 - 開架図書冊数: 1,104冊
 - 閉架図書冊数: 34,699冊
- ・閉架図書の利用状況(平成24年4月1日～平成25年3月31日)
 - 利用人数: 76人
 - 利用冊数: 164冊

・視聴覚資料数（平成25年3月31日現在）

ビデオテープ	408巻
C D	84枚
D V D	43枚

■刊行物

平成24年度の刊行物は次の通りである。

- ・松戸市立博物館年報 第19号
A 4版60頁(本文54頁) 500部 平成24年8月31日
- ・平成24年度企画展東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－
A 4版120頁(本文112頁) 2,000部 平成24年10月6日
- ・松戸市立博物館紀要 第20号
A 4版60頁(本文57頁) 800部 平成25年3月31日
- ・まつどミュージアム No.21
3,000部 平成25年3月29日

■ミュージアムショップ

受付横にミュージアムショップを開設し、刊行物とミュージアムグッズを販売している。

ミュージアムグッズ			
はがき	10種類	各80円	クリアホルダー3枚セット 100円
テレホンカード	4種類	各700円	ミニクリアホルダー(景清・阿沙丸・土偶)3枚セット 各200円
埴輪ぬいぐるみキーホルダー(馬・人)		各350円	500円
土鈴セット		200円	一筆箋(バルシャ・朱印状) 各300円
メモ帳		100円	縄文土器レプリカ 深鉢形土器3種類 9,000円
虚無僧ストラップ(青・赤・緑)		各750円	～10,000円
虚無僧錦絵・絵はがきセット		350円	クリアホルダー(コシッキー1体・3体) 各150円
図 録			
改訂版 常設展示図録(平成16年度)		1,500円	企画展 戦後松戸の生活革新 完売
開設記念展 松戸写真館		完売	－新しい暮らし方へのあこがれ－(平成12年度)
－カメラがとらえた松戸の人々－(平成5年度)			企画展 中世の東葛飾 1,200円
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)		1,000円	－いのり・くらし・まつりごと－(平成13年度)
企画展 救いの民俗		完売	企画展 弥生人の脳発見! 完売
－地獄極楽冥土の旅－(平成6年度)			－とっとり青谷上寺地遺跡展－(平成14年度)
特別展 馬と牧		完売	企画展 はにわの十字路 1,000円
－かつて松戸は牧場だった－(平成6年度)			－古代東国の交流と地域性－(平成14年度)
企画展 稲と魚		900円	特別展 川の道 江戸川(平成15年度) 1,000円
－水田をめぐる漁・猟・採集－(平成7年度)			企画展 昔のくらし探検<松戸版>(平成16年度) 500円
特別展 古墳時代の飾り馬		完売	企画展 ペルシャ文明の曙 1,000円
－馬利用のはじまりをさぐる－(平成7年度)			－文明の基層を探る－(平成17年度)
企画展 小金城主高城氏(平成8年度(平成13年度再版))		1,000円	企画展 戦国の城をさぐる 1,000円
特別展 シルクロードとガンダーラ(平成8年度)		1,500円	－松戸市根木内歴史公園開園記念－(平成18年度)
特別展 福神の世界(平成9年度)		完売	企画展 大名の旅 1,000円
特別展 ネアンデルタール人の復活(平成10年度)		1,000円	－本陣と街道－(平成19年度)
企画展 水戸道中		完売	特別展 縄文時代の東・西(平成20年度) 1,000円
－宿場と旅人－(平成10年度)			企画展 人生儀礼の世界(平成21年度) 1,000円
特別展 貝塚を考える(平成10年度)		1,200円	企画展 湯浅喜代治 考古コレクション 1,000円
			－夢を追った70年－(平成22年度)
			企画展 東日本の古墳と渡来文化 1,000円
			－海を越える人とモノ－(平成24年度)
紀 要			
松戸市立博物館紀要 第1号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第11号 500円
松戸市立博物館紀要 第2号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第12号 500円
松戸市立博物館紀要 第3号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第13号 400円
松戸市立博物館紀要 第4号		700円	松戸市立博物館紀要 第14号 500円
松戸市立博物館紀要 第5号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第15号 500円
松戸市立博物館紀要 第6号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第16号 600円
松戸市立博物館紀要 第7号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第17号 500円
松戸市立博物館紀要 第8号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第18号 500円
松戸市立博物館紀要 第9号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第19号 400円
松戸市立博物館紀要 第10号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第20号 500円

資料集・報告書			
松戸市立博物館歴史資料集1 東漸寺所蔵資料目録	700円	松戸市立博物館歴史資料集2 青木源内家所蔵資料目録追加	700円
松戸市立博物館報告書1 松戸の三匹獅子舞(VTR含む)	5,400円	松戸市立博物館報告書4 松戸旧宿場町建築物調査報告書	2,100円
松戸市立博物館報告書2 縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1,200円	松戸市立博物館映像記録VTR 送り大師 東葛飾印旛大師講の人々	完売
松戸市立博物館報告書3 松戸市民家調査報告書	完売		
松戸市史			
松戸市史 上巻	完売	松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」	2,000円
松戸市史 中巻「近世」	5,500円	松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」	2,500円
松戸市史 下巻(一)「明治」	4,000円	松戸市史考古資料集1 大谷口遺跡の土師器と須恵器	300円
松戸市史 下巻(二)「大正・昭和」	3,900円	松戸市史考古資料集2 千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする考古資料	300円
松戸市史資料編(一)「大熊家文書」	2,800円	松戸市史考古資料集3 関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告 寒風台遺跡出土石器再整理報告	300円
松戸市史資料編(二)「近世諸家文書」	完売	松戸市史考古資料集4 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を中心とする考古資料	400円
松戸市史資料編(三)「萬満寺史料」	3,500円		
松戸市史資料編(四)「本土寺史料」	5,500円		
松戸市史資料編(五)上「秋谷家文書」	8,050円		
松戸市史資料編(五)下「秋谷家文書」	7,500円		
松戸市史資料編(六)「東漸寺史料」	5,000円		
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円		
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円		

(8) 博物館実習

募集要項を「広報まつど」及び当館ホームページ(年報奥付にアドレスを記載)に掲載して募集を行ったところ8名の応募があり、書類審査の結果6名を受け入れることとした。実習生の氏名・所属及び実習内容は以下のとおりである。

平成24年度博物館実習生

no.	班別	大学名	氏名	学部学科専攻分野
1	第1班	帝京大学	大川 藍	文学部史学科日本史専攻
2	第1班	東京女子大学	深川 美樹	現代教養学部人文学科史学専攻
3	第1班	二松學舎大学	岩橋 廉	文学部国文学科映像・メディア専攻
4	第2班	学習院大学	石井 秀和	文学部史学科日本史専攻
5	第2班	大正大学	稲葉 ひかる	文学部歴史文化学科文化財コース
6	第2班	立正大学	船橋 健太郎	文学部史学科東洋史専攻

(1) 合同実習

月日	曜日	午前	午後
7月29日	日	実習内容説明、館内バックヤード見学	展示見学、質疑応答

(2) 班別実習

1班 8月2日(木)～8月8日(水)

月日	曜日	午前	午後
8月2日	木	写真データ整理	写真データ整理
8月3日	金	写真データ整理	「土鈴をつくろう」準備
8月4日	土	「土鈴をつくろう」補助	「土鈴をつくろう」補助
8月5日	日	戸定歴史館見学	流山市立博物館見学
8月6日	月	休館日	休館日
8月7日	火	来館者空間の自由研究	同左(14:00まで)／保存科学と測定機材
8月8日	水	来館者空間に関する研究発表	まとめレポート執筆

2班 8月9日(木)～8月15日(水)

月日	曜日	午前	午後
8月9日	木	写真データ整理	写真データ整理
8月10日	金	写真データ整理	「骨ペンダントづくり」準備
8月11日	土	「骨ペンダントづくり」補助	「骨ペンダントづくり」補助
8月12日	日	戸定歴史館見学	流山市立博物館見学
8月13日	月	休館日	休館日
8月14日	火	来館者空間の自由研究	同左(14:00まで)／保存科学と測定機材
8月15日	水	来館者空間に関する研究発表	まとめレポート執筆

(9) 教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ

学校から個別に依頼を受けて、小・中・高等学校生の勤労観・社会観を育成するための職場体験学習を行った。

[小学生]

平成24年7月24日(火) 柳雄大・鈴木海斗・指宿真・松沢一矢(流山市立流山北小学校6年生)

平成24年10月4日(木) 小田柚保・橋本あかり(市立稔台小学校6年生)

[中学生]

平成24年9月19日(水) 小野田仁来・和田堅人(市立古ヶ崎中学校2年生)

平成24年11月8日(木) 岩崎直紀・谷口弘哲(市立金ヶ作中学校2年生)

平成24年11月9日(金) 大関 礎・池下大河(市立牧野原中学校2年生)

平成24年11月21日(水) 渡会詢也・秋元 凱(市立河原塚中学校2年生)

平成24年11月29日(木) 原子智気・山口郁弥(市立第三中学校2年生)

平成24年11月30日(金) 星屋愛香・岡田利奈(市立第四中学校2年生)

平成25年1月30日(水) 井野雅斗・川合優也(市立小金南中学校2年生)

[高校生]

平成24年7月25日(水) 立場大作・十河大地(千葉県立小金高等学校1年生)

4 調査・研究

(1) 松戸市古文書調査(委託)

[概要]

博物館における展示の基礎資料を得るため、松戸市古文書調査団を組織し、平成2年度より継続して市内旧家に保存されてきた古文書を調査している。今年度は、平成23年度から整理に着手した原田重左衛門家(松戸市松戸)所蔵資料で、整理が残っていた資料の整理を完了し、仮目録「原田重左衛門家所蔵資料目録Ⅲ」を作成した。続いて、旧松戸宿(納屋川岸)の河岸問屋・青木源内家所蔵資料の整理に着手し、仮目録「青木源内家所蔵資料目録(第3次)」を作成した。青木家所蔵資料については、昭和55年刊行の『松戸市古文書目録(2)』(松戸市誌編さん室編、松戸市発行)に、古文書599点・暦34点の目録が収録されていた(第1次)。その後、松戸市立博物館の開設準備事業の中で、青木家に第1次目録未搭載の資料があることが平成2年に判明し、松戸市古文書調査団によって調査・整理を進め、平成3年3月に仮目録が完成、平成9年3月に『青木源内家所蔵資料目録追加』(松戸市立博物館編集発行、松戸市立博物館歴史資料集2)として目録が刊行された(第2次)。さらにその後、平成12年に先の第1次・第2次の目録にも掲載されていない資料の存在を確認し、今年度に整理を進め第3次の仮目録を作成した次第である。なお、青木家については、前記『青木源内家所蔵資料目録追加』の「解題」を参照のこと。

[組織]

団 長: 所理喜夫(駒澤大学名誉教授)

幹 事: 中野達哉(駒澤大学教授)・出口宏幸(駒澤大学講師)

調 査 員: 小泉雅弘(駒澤大学准教授)・小松寿治(板橋区郷土資料館)・浅倉直美(駒澤大学講師)・平野明夫(千葉県文書館)・吉田政博(板橋区教育委員会)・大寫聖子(東京大学史料編纂所)・鈴木雅晴(江東区地域振興会)・上田良知(神奈川県立公文書館)・高木謙一(埼玉県立文書館)・中村陽平(板橋区教育委員会)・澤村怜薫(駒澤大学大学院生)ほか

調査補助員: 小路口復(駒澤大学生)ほか

(2) 研究員の活動

中野達哉(駒澤大学文学部教授)

研究テーマ「江戸近郊における旗本知行所支配の研究」

旧大谷口村名主大熊家文書(館蔵資料)を素材に、江戸近郊に位置した松戸市域の旗本知行所(農村)の構造的特質を解明することを目的とする。特に、関東地方に分散する旗本知行所の中で、江戸旗本屋敷から一番近い江戸近郊農村が領主(旗本)と全知行所農民の中間に立たされた特質・役割等を分析・考察した。

小野博史(共愛学園前橋国際大学非常勤講師)

研究テーマ 松戸市域の民俗調査資料に関する研究

これまで松戸市域で行われてきた民俗調査において収集した調査資料の分析を行った。具体的には、市内紙敷地区の民俗調査資料を公開するために調査報告としてまとめる基礎的作業を行った。

(3) 学芸員の活動

小高 昭一

専攻分野: 日本近世史

研究テーマ: 「近世村落成立史の研究」「水戸道中・金町松戸関所の研究」

[年間活動]

・館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」担当

・講座講師「古文書を読む(近世入門編)」担当(全5回・平成25年1月26日～3月23日)

- ・講演会講師「学芸員講演会② 小金牧の享保改革 その2」(平成24年7月21日)

[外部機関等協力活動]

- ・駒澤大学文学部非常勤講師「歴史学(日本近世史)」(平成24年4月1日～平成25年3月31日)
- ・講演会講師「松戸市立博物館近世史」(まっど学びの旅推進協議会主催「21世紀の森・博物館学びウォーク」、会場:松戸市立博物館)(平成24年5月11日(金)11:00～12:00)
- ・講演会講師「松戸の歴史を学ぼう—江戸時代の松戸—」(高寿会月例会、会場:松戸市門前町会集会所)(平成24年6月14日(木)13:30～14:30)(パートナー講座)
- ・講演会講師「松戸の歴史をひもといてみよう—松戸と小金の宿について知ろう—」(松戸市立図書館主催「第11回子ども・本まつり」、会場:松戸市立図書館子ども読書推進センター)(平成24年7月24日(金)10:00～11:00)
- ・講演会講師「松戸の歴史を学ぼう—江戸時代の新田開発—」(松戸石造物懇話会、会場:松戸市市民会館・201号室)(平成24年8月21日(火)10:30～12:00)(パートナー講座)
- ・講演会講師「水戸道中と小金宿」(小金地区社会福祉協議会主催「地域セミナー・小金浪漫パート3」、会場:小金市民センター)(平成25年2月22日(金)14:00～16:00)(パートナー講座)

[執筆]

- ・史料紹介「松戸市立博物館所蔵『享保九年御用向留帳—享保の小金牧改革関係史料—』『松戸市立博物館紀要』第20号松戸市立博物館(平成25年3月31日)

[所属学会]

日本歴史学協会、地方史研究協議会(常任委員)、日本史研究会、関東近世史研究会、房総文化懇話会

山田 尚彦

専攻分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」
「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

- ・講演会講師「学芸員講演会⑤日本の郷土玩具—収蔵庫をひらく2—」(平成25年1月19日)

[外部機関等協力活動]

- ・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(平成24年10月1日～平成25年3月31日)
- ・第15期・16期日本民具学会評議員(平成22年10月1日～平成24年9月30日、平成24年10月1日～平成26年9月30日)

[執筆]

- ・「ごみ戦争と、ポリパール:中村次雄氏寄贈資料との関連から」『松戸市立博物館紀要』第20号 松戸市立博物館(平成25年3月31日)

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、相模民俗学会、地方史研究協議会、文化資源学会、日本生活学会、日本家政学会、日本写真学会、農耕文化研究振興会、メディア史研究会、文化財保存修復学会、American Anthropology Association

中山 文人

専攻分野:日本中世史

研究テーマ:「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・講座講師「中世史料を読む」(全6回・平成24年9月13日～11月22日)
- ・講演会講師「学芸員講演会⑥地味な御城まわりの有りあまるほどの美田」(平成25年2月16日)

[外部機関等協力活動]

- ・講演会講師「コガネの中世～小金城・本土寺と周辺の世界～」(小金地区社会福祉協議会、会場:小金市民センター)(平成24年7月27日(金))(パートナー講座)
- ・講演会講師「国府台合戦のころの松戸」(松戸市公民館自主企画講座・つれづれ友の会/平成25年2月8日/松戸市公民館)

[所属学会]

歴史学研究会、地方史研究協議会、日本史研究会、千葉城郭研究会、博物館問題研究会

青木 俊也 専門分野:民俗学
研究テーマ「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・講演会講師「学芸員講演会①民俗学からみた人の一生」(平成24年6月16日)
- ・昔の暮らし体験教室講師「自分でつくる糸と布」(2回)
- ・昔の暮らし体験教室講師「小学生学芸員 米づくり・展示づくり」(11回)
- ・体験教室講師「自分でつくる糸と布」(2回)
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみません」(3回)

[外部機関等協力活動]

- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科非常勤講師『博物館民俗資料学特論』(平成24年4月1日～平成24年8月31日)
- ・立教大学兼任講師 学校・社会教育講座「民俗学」1.2(平成24年4月1日～平成25年3月31日)
- ・人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員「歴史表象の形成と文化」(平成24年4月1日～平成25年3月31日)
- ・神奈川県地域史研究会総会シンポジウム「地域史と博物館」コメント
(会場:横浜市歴史博物館講堂 平成24年6月23日(土))

[執筆]

- ・「シンポジウム『地域史と博物館』に参加して—『地域博物館の未来像』のその後』(2012年度総会シンポジウムコメント)
『神奈川県地域史研究』第30号 神奈川県地域史研究会(平成25年2月28日)
- ・「行為の展示を考える」『松戸市立博物館紀要』第20号 松戸市博物館(平成25年3月31日)

[所属学会]

日本民俗学会、日本民具学会、地方史研究協議会、日本展示学会

大森 隆志 専門分野:考古学
研究テーマ「中世地下式坑の考古学的研究」

[年間活動]

- ・館蔵資料展「ガンダーラ」担当(平成24年7月21日～9月17日)
- ・学芸員講演会講師「考古資料の調査・整理・公開について」平成24年11月11日(日)

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、縄文時代文化研究会、山梨県考古学協会、房総中近世考古学研究会、文化経済学会(日本)、日本アートマネジメント学会

柏木 一郎 専門分野:日本近代史
研究テーマ「近代日本政治外交史・近代日本軍事史の研究」

[年間活動]

- ・講演会講師「学芸員講演会⑦ まぼろしの松戸飛行場」(平成24年3月16日)
- ・エントランス展示担当

[外部機関等協力活動]

- ・法政大学通信教育部兼任講師「日本近代史」(平成24年4月1日より7月31日)
- ・法政大学キャリアデザイン学部兼任講師「教職日本史」(平成24年4月1日より25年3月31日)
- ・講演会講師 「松戸の歴史を学ぼう－根本を中心にした近世・近代の松戸の歴史－」平成24年6月19日(火)(根本連合町会根本クラブ 会場:天満宮談話室)(パートナー講座)
「松戸の歴史を学ぼう－五香六実の歴史－」平成24年11月18日(日)(六実連合町会北町町会、会場:六実市民センター)
(パートナー講座)
「松戸の歴史を学ぼう－近世～近現代の松戸の歴史について－」平成24年12月15日(土)(小金原一丁目町会、会場:テクノ21)(パートナー講座)

[執筆]

- ・「明治初年の開墾局職員について」『松戸市立博物館紀要』第20号 松戸市立博物館(平成25年3月31日)

[所属学会]

歴史学会、明治維新史学会、東アジア近代史学会、日本台湾学会、洋学史学会、法政大学史学会

小林 孝秀 専門分野:日本考古学
研究テーマ:「古墳時代東国社会の研究」

[年間活動]

- ・こども体験教室講師「勾玉づくり」(2回、平成24年5月3日)
- ・企画展「東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－」担当(平成24年10月6日～11月25日)
- ・講演会講師「学芸員講演会③ 海を渡り来た文物－古墳時代の交流史－」(平成24年10月20日)
- ・企画展関連シンポジウム「東日本の古墳と渡来文化」(企画・進行、平成24年11月17日、会場:森のホール21/小ホール)
- ・松戸市史上巻改訂事業従事

[外部機関等協力活動]

- ・日本考古学協会2013年度新入会員入会資格審査委員
- ・市川市史編さん委員会調査員

[口頭発表]

- ・「東国の古墳と石室－横穴式石室の展開と系譜－」(平成24年度地域史フォーラム「古代東国と柴又八幡神社古墳」葛飾区郷土と天文の博物館、報告・全体討議、会場:葛飾区郷土と天文の博物館、平成24年10月28日)
- ・「関東の終末期古墳を考える－横穴式石室を中心として－」(トンボの眼・土生田純之先生監修10月開講連続5回講座「関東の古墳を考える」、第4回を担当、会場:豊島区立生活産業プラザ、平成25年1月12日)

[執筆]

- ・「関東における横穴式石室の展開－地域性と地域間交流の評価－」『古代学研究所紀要』第17号(特集:公開研究会「古墳時代横穴式石室研究の新視点」明治大学古代学研究所、平成24年6月25日)
- ・「横穴式石室(含棺)」土生田純之・亀田修一編『古墳時代研究の現状と課題』上(古墳研究と地域史研究、同成社、平成24年9月30日)
- ・企画展図録「東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－」松戸市立博物館(平成24年10月6日)

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、東北・関東前方後円墳研究会、茨城県考古学協会、韓国考古学会、嶺南考古学会

(4) 市史編さん業務

松戸市史は、昭和36年11月、「松戸市史 上巻」を発行し、その後、近代編としての「松戸市史 下巻(一)」、「同(二)」を先に発行し、最終的に昭和53年3月近世編を「松戸市史 中巻」として刊行し市史の通史編を完結した。

この間、発掘・発見された市史資料は膨大な量となり、資料的にも、学問的にも市史全体を見直す時期が到来した。

これにより、平成10年11月、松戸市長より松戸市史上巻改訂についての諮問が出され、松戸市史編さん委員会は翌平成11年11月答申書を市長に提出。松戸市史上巻改訂作業に着手した。

平成21年、松戸市史上巻改訂事業予算が計上され、平成25年度の刊行に向けて編集作業中。

[作業内容]

- | | |
|--------|--|
| 平成21年度 | 市史編さん方針の決定
原始・古代部会、中世部会各部会員の決定
執筆者の決定
考古・古代・中世資料目録等作成 |
| 平成22年度 | 考古資料調査(含県外)
古代・中世資料調査(含県外)
写真撮影・図版作成 |
| 平成23年度 | 補充調査
写真撮影・図版作成
市史原稿作成 |
| 平成24年度 | 写真撮影・図版作成
市史原稿作成 |

5 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料収集

受贈

- ・益山澄子様 土器(二ツ木向台遺跡採集縄文土器) 1点①

購入

- ・錦絵「富士三十六景 下総小金原」(歌川広重) 1枚②
- ・錦絵「名所江戸百景 千住の大はし」(歌川広重) 1枚③
- ・錦絵「千代田之御表 小金原牧狩ノ図」(揚洲周延) 1組④



①



②



③

二次資料収集

- 受贈図書 33冊 図書交換機関等 235ヶ所
- 購入図書 117冊 購入逐次刊行物 40タイトル
- 交換図書 557冊 受贈及び交換逐次刊行物 249タイトル



④

(2) 博物館資料の貸出 (平成24年4月1日～25年3月31日申請分)

	貸出期間	借用者	利用形態	目的	貸出資料・点数
1	H24.4.17～ 7.下旬	龍谷大学龍谷ミュージアム	資料貸出	特別展「仏教の来た道」展で展示するため	石造仏伝浮彫「マツラ族の移石ほか」1点・石造仏頭部(マトウラー出土) 1点

(3) 博物館資料の特別利用 (平成24年4月1日～25年3月31日申請分)

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	平成24年5月24日	㈱グレイル	写真利用	辰巳出版「お城の手帖2戦国武将編」(仮称)掲載のため	小金城大谷口歴史公園の畝状空堀 1点
2	7月25日	千葉地方法務局	写真撮影	筆界特定手続に必要な資料収集	和紙公園(松戸市上本郷字花台の字限図及びその綴り) 1点
3	8月7日	千葉地方法務局	写真撮影	筆界特定手続に必要な資料収集	和紙公園(松戸市上本郷字花台の字限図及びその綴り)・明村道路認定路線図・松戸町道路認定路線図・八柱村道路認定路線図・明村全図 各1点
4	9月20日	㈱Z a Z a	写真撮影	新京成電鉄ルーフレット及びポスターに掲載するため	「常盤平団地2DK」1式
5	10月2日	毎日新聞出版局編集部	資料調査	団地を舞台にした小説執筆のため	「常盤平団地自治会報」1式
6	11月中旬	㈱オフィスイデオム	写真利用	「学研まんがNEW日本の歴史」掲載のため	「常盤平団地2DK」1式
7	9月20日	千葉地方法務局	写真撮影	筆界特定手続に必要な資料収集	和紙公園(松戸市上本郷字花台の字限図及びその綴り)・同(松戸市竹ヶ花の字限図) 各1点
8	12月22日～平成25年3月25日	野田市郷土博物館	写真利用	企画展「古文書」(仮称)パネル作成、及び関連事業での掲出のため	「東海道五拾三次 関(狂歌入東海道)」1点
9	9月25日	個人	映像複写	教育・研究の資料とするため	「三匹獅子舞概要編 和名ヶ谷・上本郷・大橋」1点
10	11月18日	高根台団地自治会	写真利用	高根台団地自治会結成50周年記念誌に掲載のため	「常盤平団地2DK」1式
11	10月17日	テレビ朝日	ビデオ撮影	「CREAM QUIZミラクル9」で放送するため	「松戸覚之助」肖像写真・「錦果園果樹園入口」写真 各1点
12	11月2日	個人	写真撮影	論文執筆のため	稔台遺跡45号住居跡5点・同5号住居跡16点
13	12月27日	㈱オーナーズスタイル	写真利用	「オーナーズスタイル」に掲載のため	「常盤平団地2DK」・「白黒テレビ」・「電気洗濯機」・「電気冷蔵庫」各1点
14	10月23日	㈱スローハンド	ビデオ撮影	テレビ番組撮影のため	「常盤平団地2DK」1式

博物館資料の特別利用

15	11月1日	(株)芳林社	写真利用	「マネジメントスクエア」に掲載のため	子和清水遺跡出土土器写真 1点
16	10月31日	千葉地方法務局	写真撮影	公園訂正のため	和紙公園(松戸市上本郷字花台) 1点
17	12月1日	(株)織本真理企画室	写真利用	新京成電鉄ハイキングちらし掲載のため	「千代田の御表 小金原牧将立場之図」 1点
18	12月6日	個人	資料調査	論文執筆のため	二ツ木後田遺跡出土土器 10点
19	12月6日	個人	資料調査	論文執筆のため	境外Ⅱ遺跡出土旧石器 123点
20	平成25年1月23日	(株)平凡社	写真利用	「縄文ビジュアル百科」に掲載するため	幸田貝塚出土土器 3点
21	平成24年12月17日	(株)吉川弘文館	写真・図面利用	「事典 墓の考古学」に掲載するため	下水遺跡第1地点出土埋藏実測図・同地点出土埋藏写真 各1点
22	12月28日	(株)文化堂印刷	写真撮影	フリーペーパーに掲載するため	「常盤平団地2DK」1点
23	平成25年1月19日	(株)権出版社	写真撮影	「バイシクルクラブ」3月号に掲載するため	「常盤平団地2DK」3点・虚無僧復元立像1点
24	平成25年1月25日 ～27年3月31日	千葉県文書館	写真利用	「千葉県の歴史」を紹介するパネル作成のため	「本土寺過去帳(天正本)」2点
25	平成25年1月30日	オフィスワイズメイツ合同会社	写真利用	中学生向け社会科教材「歴史の完全学習2」(日本文教出版準拠版・(株)正進社発行)に掲載のため	常設展示「常盤平団地2DK」1点
26	4月10日	神奈川大学	写真利用	神奈川大学ブックレット「あるく民俗・あるく展示」に掲載するため	圓福寺所蔵「熊野観心十界図(写真)」1点
27	3月6日	個人	資料調査	歴史学習のため	竹ヶ花古墳出土資料(鉄器) 5点

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。

期間:平成24年6月25(月)～7月2日(月)

対象:常設展示室・企画展示室

委託先:関東港業(株)

使用薬剤:酸化プロピレン製剤(商品名アルプ)

[学習資料展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。

期間:平成24年4月6日(金)～4月20日(金)

対象:民俗資料等

委託先:関東港業(株)

使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[燻蒸庫による資料燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。

期間と対象

第1回 平成24年4月6日(金)～4月8日(日)

考古資料

第2回 平成24年10月23日(火)～10月25日(木)

歴史資料・写真資料

第3回 平成24年12月12日(水)～12月14日(金)

考古資料・民俗資料・写真資料

第4回 平成25年3月4日(月)～3月6日(水)

考古資料・写真資料

委託先:関東港業(株)

使用薬剤:酸化プロピレン製剤(商品名アルプ)

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的として防除作業を行った。

期 間:平成24年6月28日(木)～6月29日(金)

対 象:復元竪穴住居3棟

委託先:関東港業(株)

使用薬剤:フェノトリン炭酸製剤(商品名ミラクス)

6 平成24年度常設展・企画展アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、エントランスホール(常設展アンケート)と企画展示室前ロビー(企画展アンケート)に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の性別、年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

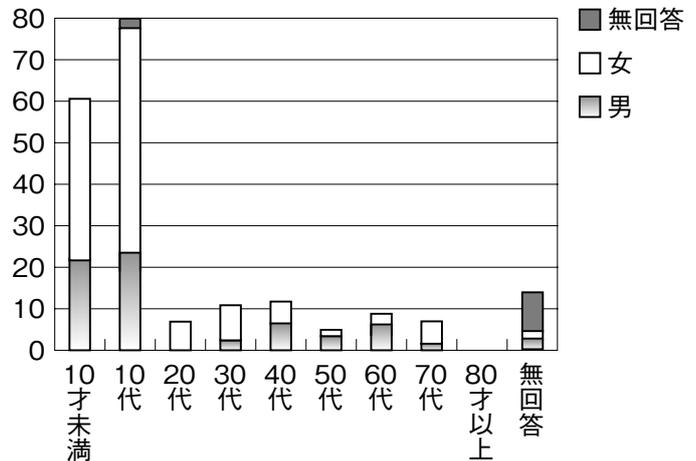
以下に、回答者の傾向を端的に示した“性別”と“年齢”のクロス集計、及び“来館回数”“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 平成24年度常設展

- 観覧者数 15,474人
- アンケート有効回答者数 197件(回答率 1.3%)
- 調査期間 平成24年4月1日(日)～平成25年3月31日(日)

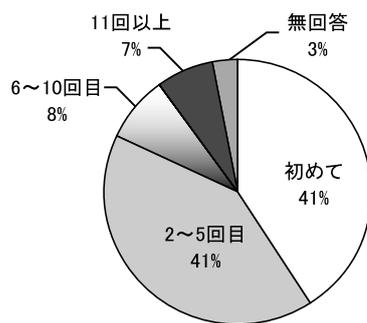
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	22	38	0	60
10代	24	53	2	79
20代	1	5	0	6
30代	3	7	0	10
40代	7	4	0	11
50代	4	0	0	4
60代	7	1	0	8
70代	2	4	0	6
80才以上	0	0	0	0
無回答	3	1	9	13
計	73	113	11	197



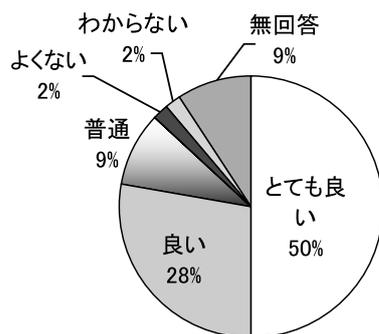
■ 来館回数

初めて	80
2～5回目	81
6～10回目	16
11回以上	14
無回答	6
計	197

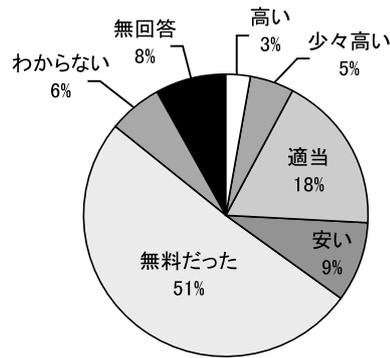


■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	99
良い	56
普通	18
よくない	4
わからない	3
無回答	17
計	197



観覧料について	
高い	7
少々高い	9
適当	35
安い	18
無料だった	101
わからない	12
無回答	15
計	197

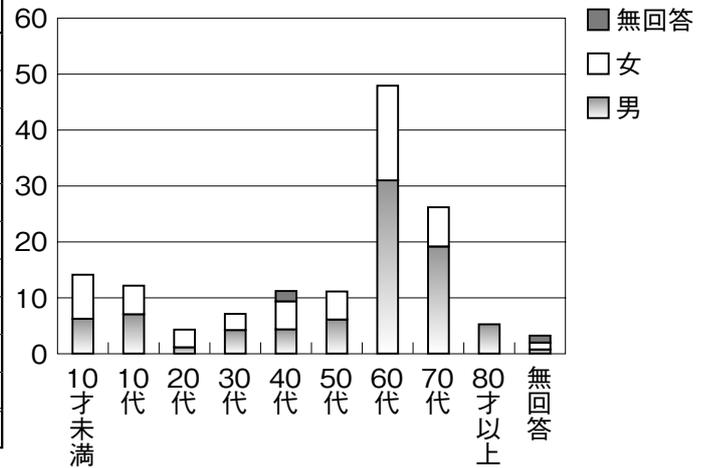


(2) 館蔵錦絵展「初夏の江戸名所」

- 観覧者数 3,372人
- アンケート有効回答者数 141件(回答率 4.2%)
- 調査期間 平成24年4月28日(土)～6月10日(日)

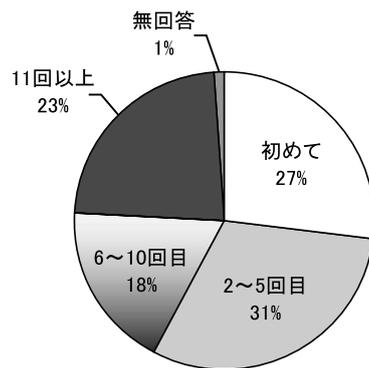
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	6	8	0	14
10代	7	5	0	12
20代	1	3	0	4
30代	4	3	0	7
40代	4	5	2	11
50代	6	5	0	11
60代	31	17	0	48
70代	19	7	0	26
80才以上	5	0	0	5
無回答	1	1	1	3
計	84	54	3	141



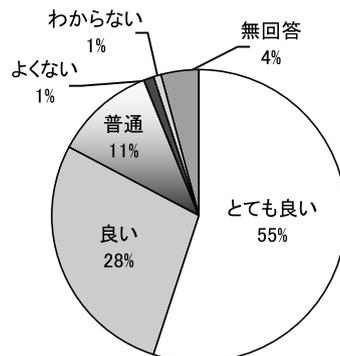
■ 来館回数

初めて	38
2～5回目	43
6～10回目	26
11回以上	33
無回答	1
計	141



■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	78
良い	40
普通	15
よくない	1
わからない	1
無回答	6
計	141

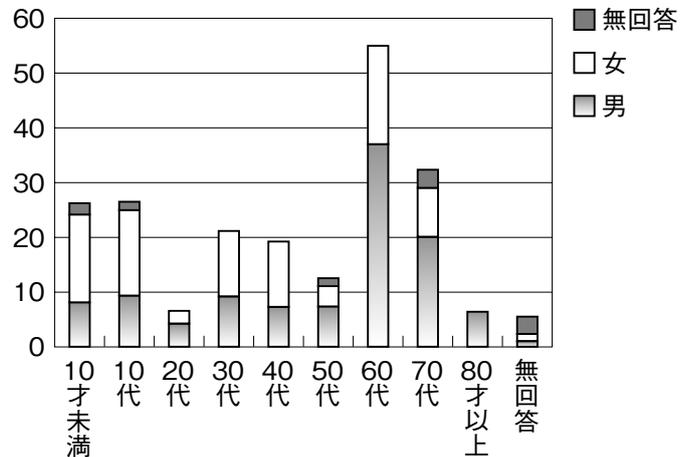


(3) 館蔵資料展「ガンダーラ」

- 観覧者数 3,690人
- アンケート有効回答者数 208件(回答率 5.6%)
- 調査期間 平成24年7月21日(土)～9月17日(月)

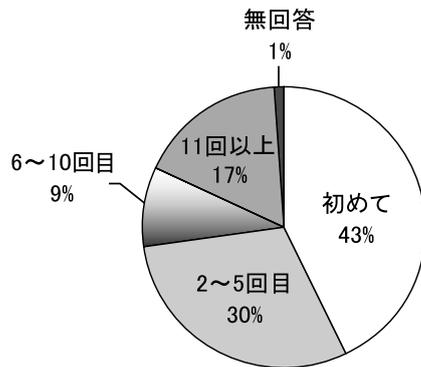
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集

	男	女	無回答	計
10才未満	8	16	2	26
10代	9	16	1	26
20代	4	2	0	6
30代	9	12	0	21
40代	7	12	0	19
50代	7	4	1	12
60代	37	18	0	55
70代	20	9	3	32
80才以上	6	0	0	6
無回答	1	1	3	5
計	108	90	10	208



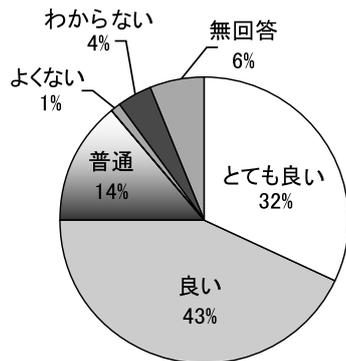
■ 来館回数

初めて	90
2～5回目	62
6～10回目	19
11回以上	35
無回答	2
計	208



■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	67
良い	90
普通	28
よくない	2
わからない	8
無回答	13
計	208

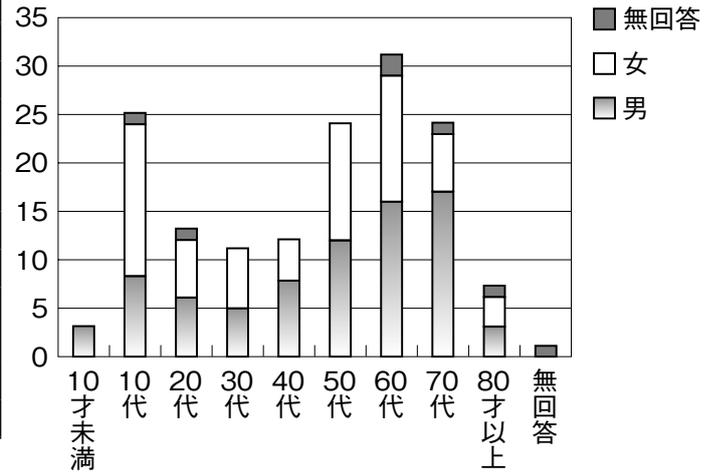


(4) 企画展「東日本の古墳と渡来文化ー海を越える人とモノー」

- 観覧者数 2,885人
- アンケート有効回答者数 151件(回答率 5.2%)
- 調査期間 平成24年10月6日(土)～11月25日(日)

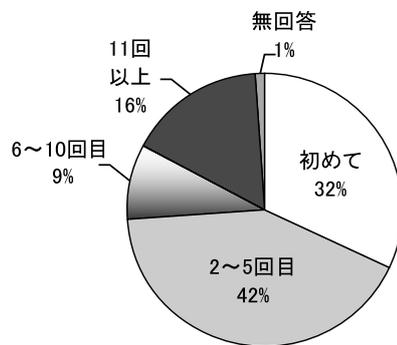
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	3	0	0	3
10代	11	13	1	25
20代	6	6	1	13
30代	5	6	0	11
40代	8	4	0	12
50代	12	12	0	24
60代	16	13	2	31
70代	17	6	1	24
80才以上	3	3	1	7
無回答	0	0	1	1
計	81	63	7	151



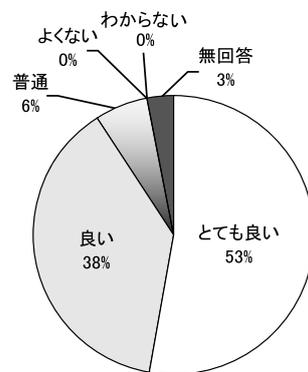
■ 来館回数

初めて	48
2～5回目	64
6～10回目	13
11回以上	25
無回答	1
計	151



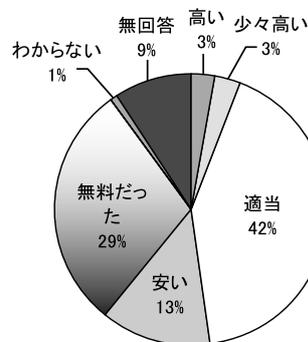
■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	81
良い	57
普通	9
よくない	0
わからない	0
無回答	4
計	151



■ 回答者の満足度

観覧料について	
高い	4
少々高い	4
適当	64
安い	19
無料だった	44
わからない	2
無回答	14
計	151

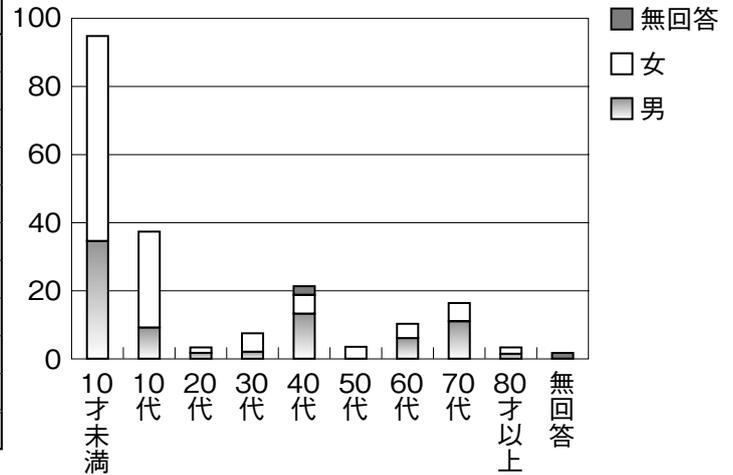


(5) 学習資料展「昔のくらし探検」

- 観覧者数 7,935人
- アンケート有効回答者数 196件(回答率 2.5%)
- 調査期間 平成25年1月22日(火)～3月31日(日)

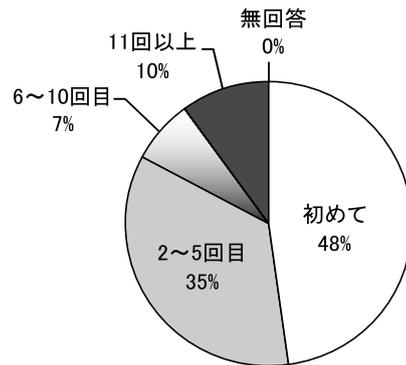
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	35	60	0	95
10代	9	28	0	37
20代	1	2	0	3
30代	2	5	0	7
40代	13	6	2	21
50代	0	3	0	3
60代	6	4	0	10
70代	11	5	0	16
80才以上	1	2	0	3
無回答	0	0	1	1
計	78	115	3	196



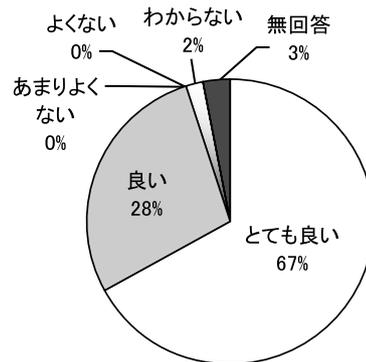
■ 来館回数

初めて	93
2～5回目	69
6～10回目	14
11回以上	20
無回答	0
計	196



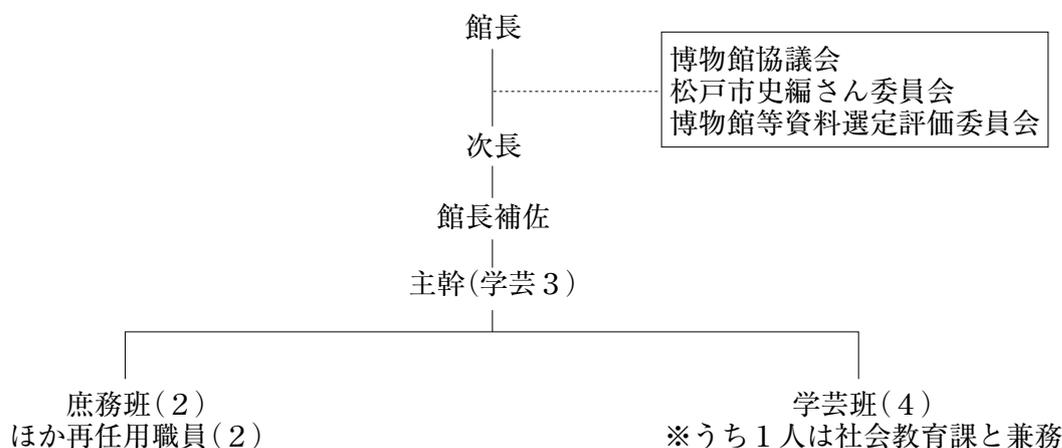
■ 回答者の満足度

展示について	
とても良い	131
良い	55
普通	1
よくない	0
わからない	3
無回答	6
計	196



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	内 訳					
		管 理 運 営	展 示 事 業	学 習 支 援	資 料 収 集	自然史 関 連	市 史 編さん
報酬	289	204					85
賃金	16,931		2,635	7,411	5,083	222	1,580
報償	3,850		160	360	330	20	2,980
旅費	118		50		68		
需用	52,353	38,286	4,046	479	1,685	189	7,668
役務	1,354	546	302	61	143	2	300
委託	82,136	57,952	15,891	913	6,680	700	0
使用	7,504	687	5,768	750			299
工事	0						
原材	43	43					
備品	1,599	150	232	100	1,050	67	0
負担	96				96		
計	166,273	97,868	29,084	10,074	15,135	1,200	12,912

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。また、博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。上巻改訂版刊行に向けて業務を実施中。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(平成25年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	綿貫 貴	松戸市立和名ヶ谷中学校校長
	西郡 泰樹	松戸市立矢切小学校教諭
社会教育	井上 礼子	前PTA連絡協議会副会長
	杉浦 誠	松戸青年会議所特別顧問
学識経験者	安蒜 政雄	明治大学教授
	濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授
	福田アジオ	国立歴史民俗博物館名誉教授
	原 正利	千葉県立中央博物館生態・環境研究部長

任期2年 平成25年9月30日まで

第1回協議会

平成24年6月9日(土)

会場：博物館会議室

議題：(1)平成24年度博物館事業概要の説明
(2)館蔵資料展「初夏の江戸名所」の内覧と評価について
(3)その他

第2回協議会

平成24年11月4日(日)

会場：博物館会議室

議題：(1)平成24年度博物館事業上半期の報告について
(2)平成25年度博物館事業計画について
(3)企画展「東日本の古墳と渡来文化」内覧と評価
(4)その他

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(平成25年3月31日現在)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学教授
金子 隆一	美術史	東京都写真美術館専門調査員
久保田昌希	歴史	駒澤大学教授
佐野 賢治	民俗	神奈川大学教授
松尾美恵子	歴史	学習院女子大学教授

任期2年 平成26年9月30日まで

委員会

平成24年度の開催はなし

(3) 松戸市史編さん委員会

委員名簿

(平成25年3月31日現在)

氏名	役職等
小山田 義夫	流通経済大学名誉教授(中世史)
大井 弘好	(財)新松戸郷土資料館長(民俗学)
中野 達哉	駒澤大学教授(歴史学)
望月 幹夫	松戸市立博物館館長(考古学)
関根 孝夫	東海大学名誉教授(考古学)

任期2年 平成26年6月30日まで

第1回編さん委員会

平成24年7月7日(土)

会場：博物館会議室

議題：(1)委員長及び副委員長の選任
(2)「松戸市史上巻」改訂の進捗状況
(3)その他

第2回編さん委員会

平成25年2月2日(土)

会場：博物館会議室

議題：(1)委員長及び副委員長の選任
(2)「松戸市史上巻」改訂の進捗状況
(3)その他

原始・古代部会員名簿

(平成25年3月31日現在)

氏名	役職等
関根孝夫	部会長/前松戸市立博物館長
古里節夫	総括/元松戸市立博物館学芸員
大森隆志	松戸市立博物館(旧石器)
川口武彦	水戸市教育委員会(旧石器)
清藤一順	八千代市立郷土博物館長(縄文)
倉田恵津子	元松戸市教育委員会(縄文)
峰村篤	松戸市教育委員会(縄文)
須賀博子	日本考古学協会会員(縄文)
設楽博己	東京大学(弥生)
松尾昌彦	聖徳大学(弥生・古墳・古代)
小林孝秀	松戸市立博物館(弥生・古墳・古代)
黒須利夫	聖徳大学(古代)
百原新	千葉大学(自然)

中世部会員名簿

(平成25年3月31日現在)

氏名	役職等
小山田義夫	部会長/流通経済大学名誉教授
齋藤慎一	江戸東京博物館
山本隆志	元筑波大学
関山純也	松戸市教育委員会
中山文人	松戸市立博物館

- ・原始・古代、中世合同部会
- ・原始・古代部会
- ・執筆状況打合せ会(原始・古代)
執筆を開始したため開催せず

5 博物館利用者数の統計

利用者総計 67,346人

常設展示月別観覧者数、並びに平成24年度企画・特別展示等観覧者数は以下の通りである。

常設展示観覧者数 (平成24年4月1日～平成25年3月31日現在)

月	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
		個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
4	25	465	31	20	0	-	-	516	1,196	34	72	261	71	1,634	2,150
5	25	402	26	50	0	-	-	478	582	27	61	201	94	965	1,443
6	20	255	4	152	40	-	-	451	138	15	55	54	168	430	881
7	25	282	31	0	0	-	-	313	151	27	36	160	35	409	722
8	27	571	46	1	0	-	-	618	0	18	82	384	51	535	1,153
9	25	342	19	27	0	-	-	388	2	12	34	117	15	180	568
10	26	232	9	0	0	207	3	451	69	8	56	132	69	334	785
11	26	158	32	0	0	368	11	569	77	16	54	136	29	312	881
12	23	246	10	0	0	-	-	256	43	5	20	115	38	221	477
1	22	277	16	0	0	-	-	293	1,530	12	46	185	57	1,830	2,123
2	23	398	17	0	0	-	-	415	2,265	7	56	318	35	2,681	3,096
3	26	409	17	43	0	-	-	469	269	4	48	389	16	726	1,195
計	293	4,037	258	293	40	575	14	5,217	6,322	185	620	2,452	678	10,257	15,474

企画・特別展示等観覧者数

企画・特別展	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
			個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
館蔵錦絵展 「初夏の江戸名所」	H24.4.28～ H24.6.10	37	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	3,372	3,372
館蔵資料展 「ガンダーラ」	H24.7.21～ H24.9.17	51	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	3,690	3,690
企画展 「東日本の古墳 と渡来文化」	H24.10.6～ H24.11.25	44	560	16	0	0	575	14	1,165	36	41	193	269	1,181	1,720	2,885
学習資料展 「昔のくらし探検」	H25.1.22～ H25.3.31	57	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	7,935	7,935
計		189	560	16	0	0	575	14	1,165	36	41	193	269	1,181	16,717	17,882

※企画展以外については、無料展示につき観覧者の内訳は把握していない。

博物館無料ゾーン利用者

(下段総数単位：人)

博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	合計
日数	293日	293日	293日	
利用者総数	8,648	4,240	17,734	30,622

講座・講演会等参加者

3,368人

博物館利用者総計 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：人)

	平成24年度	平成23年度	前年度比較
常設展示観覧者数	15,474	15,637	△163
企画・特別展示観覧者数	17,882	17,447	435
博物館無料ゾーン利用者	30,622	30,672	△50
講座・講演会等参加者数	3,368	2,802	566
利用者総計	67,346	66,558	788

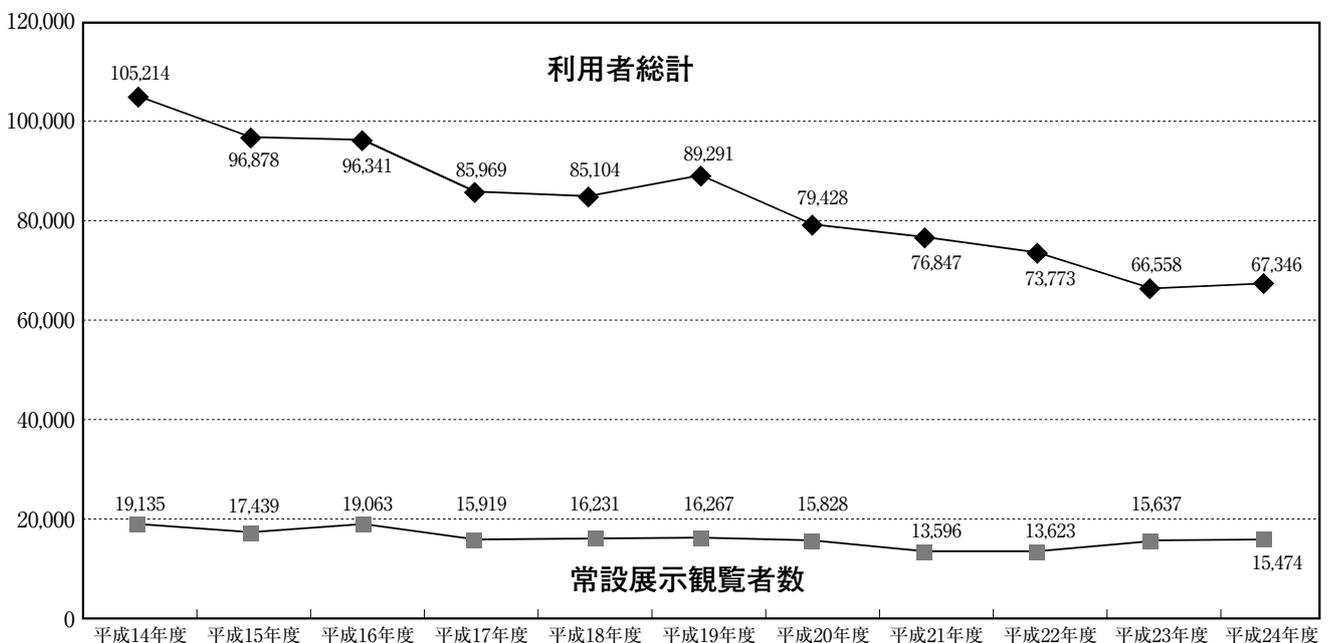
博物館利用者総数の推移 (博物館施設利用者の推移は、下の表のとおりである。)

(単位：人)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用者総数	105,214	96,878	96,341	85,969	85,104	89,291	79,428	76,847	73,773	66,558	67,346
常設展示観覧者数	19,135	17,439	19,063	15,919	16,231	16,267	15,828	13,596	13,623	15,637	15,474

博物館利用者総数の推移

(人)



6 来訪者(敬称略)

平成24年

- 4月30日 松尾昌彦(聖徳大学教授)、聖徳大学生
- 5月8日 関根孝夫(前松戸市立博物館館長)
- 5月12日 ホワイトホース市視察(松戸市姉妹都市・オーストラリア)
- 9月14日 千葉民報社取材
- 10月6日 岩崎卓也(当館名誉館長)
遠藤啓介(九州国立博物館)
- 10月12日 佐々木憲一(明治大学教授)
寺前直人(駒澤大学准教授)
- 10月14日 沈炫暎(韓国・ウリ文化財研究院)
- 10月19日 田居照康(松戸市議会議長)
- 10月20日 石川功(土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場)
- 10月21日 田中祐樹(杉戸町教育委員会)
小澤重雄(茨城県立歴史館)
田嶋昌治(小金の緑と文化財を守る会)
- 10月23日 BSフジTV取材
- 10月26日 池尻篤(久喜市教育委員会)
- 11月2日 谷口榮・五十嵐聡江(葛飾区郷土と天文の博物館)
松尾昌彦(聖徳大学教授)
- 11月3日 土生田純之(専修大学教授)
矢島浩(かみつけの里博物館)
- 11月4日 橋本博文(新潟大学教授)
斎藤あや(藤沢市教育委員会)
- 11月10日 城倉正祥(早稲田大学専任講師)
伝田郁夫(大田区立郷土博物館)
古谷毅(東京国立博物館)
- 11月11日 本郷谷健次(松戸市長)
- 11月13日 織原和雄(松戸副市長)
酒井清治(駒澤大学教授)
鈴木靖民(横浜市歴史博物館館長)
- 11月14日 坂元雄紀(九州国立博物館)
李秀眞(九州国立博物館)
崔基殷(韓国・国立公州博物館)
兪惠仙(韓国・国立公州博物館)
- 11月16日 桃崎祐輔(福岡大学教授)
横田真吾(宮内庁書陵部)
坂靖(奈良県立橿原考古学研究所)
森本徹(大阪府立近つ飛鳥博物館)
池田明(松戸市代表監査)
- 11月17日 土生田純之(専修大学教授)
酒井清治(駒澤大学教授)
白井久美子(千葉県教育振興財団文化財センター)
高田貫太(国立歴史民俗博物館准教授)
栗田則久(千葉県教育振興財団文化財センター)
久野正博(浜松市博物館)
- 11月17日 澁谷恵美子(飯田市教育委員会)

- 佐藤晃雅(八街市郷土資料館)
松本太郎(市立市川考古博物館)
鈴木一有(浜松市役所文化財課)
若狭徹(高崎市教育委員会)
岩原剛(豊橋市美術博物館)
11月24日 安武由利子(北区飛鳥山博物館)
諫早直人(奈良文化財研究所)
内山敏行(とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター)
11月25日 高久健二(専修大学教授)
菊池健一(千葉市立加曾利貝塚博物館)
石橋宏(佐野市教育委員会)

平成25年

- 1月13日 前田潮(東京成徳大学)
1月16日 松戸市議会議員(9名)
1月23日 コアラTV取材
2月13日 静岡県教育委員会文化財保護課視察
3月31日 木下史青(東京国立博物館デザイン室長)

V 条例・規則

松戸市立博物館条例 (平成4年9月24日 松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (5) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (6) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (7) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

- 2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。
- 3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10名以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に規定するもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を越えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)
この条例は平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)
この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)
この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個 人	団体(20人以上)
常設展示	一般	300円	240円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料については、無料とする。		
	(1)一般	1,200円 (共通観覧料については、1,440円)	
	(2)高校生・大学生	600円 (共通観覧料については、700円)	

備考

- 1 企画・特別展示とは、博物館において通常の展示品以外を展示する場合をいう。
- 2 共通観覧料とは、常設展示及び企画・特別展示を観覧することができる観覧料をいう。

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで
- (3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。)

2 前項第1項の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生及び高校生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 市内に居住する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。
- (5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。
- (6) その他教育委員会が必要と認めるとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者
- (2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。

3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるとき

は、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開および未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し飲食し、又は火気を使用しないこと
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。
(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもってこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会は、特に必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

6 協議会の庶務は、博物館において処理する。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・ 文書の收受、保存及び公印の管理に関すること。
- ・ 観覧料の徴収に関すること。
- ・ 予算、経理及び物品の管理に関すること。
- ・ 要覧及び年報の作成に関すること。
- ・ 財産の管理に関すること。
- ・ 施設及び設備の維持管理に関すること。
- ・ 博物館協議会に関すること。
- ・ 資料選定評価委員会に関すること。
- ・ 市史編さんに関すること。
- ・ 市史編さん委員会に関すること。
- ・ 関係団体との連絡調整に関すること。
- ・ 資料の収集、保存及び展示に関すること。
- ・ 資料の調査及び研究に関すること。
- ・ 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関すること。
- ・ 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関すること。
- ・ 資料に関する相談、情報提供に関すること。
- ・ 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関すること。
- ・ 博物館資料の寄贈、寄託に関すること。
- ・ 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関すること。
- ・ その他博物館の専門的事項に関すること。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館(以下「博物館等」という。)が行う資料の収集に関し、学識経験を有する者の意見等を求めるため、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、博物館等が行う資料の収集に当たり、次の各号に掲げる事項について審議検討する。

- (1) 資料の真がんに関すること。
- (2) 価格の適否に関すること。
- (3) 寄贈及び寄託の受入又は購入の適否に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか必要と認める事項。

2 委員会は、前項の規定にかかわらず当該資料

の購入価格が50万円以下のものについては、審議検討を省略することができる。

(構成)

第3条 委員は、学識経験を有する者の中から教育委員会が委嘱する。

2 教育委員会は、必要があるときは該当事項に関し、臨時委員を委嘱することができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。但し、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時委員の任期は、当該事項の審議が終了するまでの間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は委員長が召集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、特に必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成元年8月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成8年7月1日から施行する。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史

の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。

(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)

2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。

(松戸市役所部課設置条例の一部改正)

3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。

第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年

度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)における博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

(寄贈の申込み)

第2条 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

(寄贈の承認)

第3条 教育委員会は、寄贈を受けるとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

(寄託の申込み)

第4条 教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

(寄託資料の受託及び返還)

第5条 教育委員会は、寄託を受けるとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

2 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

(資料の一時預り)

第6条 教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

2 教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

(寄託期間)

第7条 寄託期間は、3年とする。

2 前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の4月1日とする。

3 教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとともに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

(寄託期間内の返還)

第8条 教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

(寄託資料の一時返還)

第9条 教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

2 一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

3 一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

(寄託資料の所有者変更)

第10条 教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有変更届を徴するものとする。

(受託証書の再交付)

第11条 教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

2 教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

(資料の館外貸出し)

第12条 資料の館外貸出しについては、松戸市博物館管理運営規則第7条に定めるもののほか、

次条及び第14条の規定によるものとする。

(資料の館外貸出条件)

第13条 教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

(1) 貸出しを受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出しを受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

(2) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

(3) 貸出し期間中に貸出資料の保管等のために要する費用は、全て借受人の負担とすること。

(4) 借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。

(5) 貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。

(6) 借受人は、貸出資料滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。

(7) 借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。

(8) 借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会は、その責を負わないものであること。

(9) 博物館職員の指示に従うこと。

(10) その他必要と認められる条件

(借用書の徴収)

第14条 教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。

(資料の借入れ)

第15条 教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料(以下「借受資料」という。)の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。

(借受資料の返還)

第16条 借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。

(特別利用の申込み)

第17条 資料について、調査、写真撮影等の特別な利用(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、資料特別利用申込書(寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書)を教育委員会に提出して申込まなければならない

ない。

(特別利用の承認)

第18条 教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。

(特別利用の条件)

第19条 教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

- (1) 資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は、博物館(寄託資料にあつては、博物館及びその所有者)に出版物等を寄贈すること。
- (4) 博物館職員の指示に従うこと。
- (5) その他必要と認める条件

(申込書等の様式)

第20条 この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。

(委任)

第21条 この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成5年12月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者

(5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文 70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
- (2) 研究ノート 50枚以内(同上)
- (3) 資料紹介 30枚以内(同上)
- (4) その他 編集委員会の定めるところによる

2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された以後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事

項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

図1(用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏 名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰 原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

- (1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。
- (2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

別表1

1 形式

- (1) 章・節等の全体構成の適切さ
- (2) 原稿枚数の適切さ
- (3) 投稿区分の妥当性

2 表現

- (1) 表題の適切さ
- (2) 文章の表現力
- (3) 文章の読みやすさ

3 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

4 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

5 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

別表2

- 1 掲載可(再審査不要)
 - (1) このままで掲載可
 - (2) 指摘箇所訂正後に可
- 2 修正後再審査
 - (1) 書き直し後に再審査
 - (2) 投稿区分の変更を必要とする
- 3 掲載否
 - (1) 既発表
 - (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
 - (3) 内容不可
- 4 判定不能
 - (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
 - (2) その他

職員名簿（平成24年4月1日現在）

館長（非常勤）	望月 幹夫
次長	松本 繁幸
館長補佐	諸角 滋章
主査	大関 ちひろ
主査	直井 ふき子
主幹・学芸員	山田 尚彦
主幹・学芸員	小高 昭一
主幹・学芸員	中山 文人
主査・学芸員	大森 隆志
主査・学芸員	青木 俊也
主査・学芸員	柏木 一朗
主事・学芸員	小林 孝秀
再任用	吉田 和夫
再任用	鈴木 和喜

人事異動

〈平成24年4月1日〉（かっこ内は転出・転入時の所属）

新任：館長	望月 幹夫
転出：主幹	横尾 和彦（病院・医事課）
転入：次長	松本 繁幸（市民環境本部）
再任用	鈴木 和喜（シルバー人材センター）

〈平成24年3月31日〉

退職：館長	関根 孝夫
次長	大塚 広往

〈平成24年5月31日〉

退職：再任用	吉田 和夫
--------	-------

松戸市立博物館年報 第20号

発行日 平成25年8月31日
編集発行 松戸市立博物館
松戸市千駄堀671番地（〒270-2252）
電話 047-384-8181（代表）
http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/
印刷 株式会社 弘文社

Printed in Japan, 2013©MATSUDO MUSEUM



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM